

平成 1 6 年度

独立行政法人国立美術館  
京都国立近代美術館

実績報告書

# 目 次

京都国立近代美術館の概要	3
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	7
1. 収集・保管	7
(1) 美術作品の収集（購入・寄贈・寄託）の状況	7
(2) 保管の状況	8
(3) 修理の状況	9
2. 公衆への観覧	10
(1) 展覧会の状況	10
「常設展」	13
「東松照明の写真1972 - 2002」展（テーマ展示）	16
「彫刻家 堀内正和の世界展」（企画展）	18
「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR&ROLF&KCI」展（共催展）	20
「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」（共催展）	22
「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展（企画展）	24
「没後25年 八木一夫展」（共催展）	26
「ジャパニーズ・モダン - 剣持勇とその世界 -」展（企画展）	28
「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」展（特別展）	29
「草間彌生展 - 永遠の現在」（特別展）	31
「京都国立近代美術館所蔵 - 川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」（共催展）	33
「独立行政法人国立美術館所蔵巡回展」	35
「京都国立近代美術館所蔵巡回展」	37
(2) 貸与・特別観覧の状況	41
3. 調査研究	42
4. 教育普及	44
(1) - 1 資料の収集及び公開（閲覧）の状況	46
(1) - 2 広報活動の状況	47
(1) - 3 デジタル化の状況	49
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業	50
(2) - 2 講演会等の事業	52
(2) - 3 友の会活動	54
(3) - 1 研修の取組	55
(3) - 2 大学等との連携	56
(3) - 3 ボランティアの活用状況	57
(4) 渉外活動	58
5. その他の入館者サービス	60

## 京都国立近代美術館の概要

### 1. 目的

当館は昭和38年に国立近代美術館京都分館として発足した。京都市による国立美術館の誘致運動が実現したものであり、当初は京都市の要望もあって工芸に主力を置く美術館として性格付けられたが、昭和42年に独立して京都国立近代美術館となってからは広く美術一般にその所掌範囲を広げて現在に至っている。なお、昭和61年には新館が竣工開館し、4階における常設展がはじめて可能となって、3階の企画展示とあわせて、展示活動もより活発化し、これとともに常設展に必要な作品の収集をより積極的に行うようになった。

当館に課せられた役割は、現代に繋がる美術の歴史を整理検討し、近代美術の将来の発展のために様々な活動を計画し実行することにある。その活動の分野は絵画、版画、彫刻、工芸、建築、デザイン等から写真に至るまで非常に広く、その活動範囲も日本全国の現代美術の振興に資することを目的とするものと幅広い。また、近代あるいは現代の美術を通じての海外との文化交流も任務の一端である。

以上の諸点を踏まえながら、当館は以下の方針のもとに事業を進めている。すなわち、分館当時、京都市の要望に応じて工芸に重点を置いて来た伝統を継承すること、日本の近代美術史の全体的な流れを展望しつつ主として関西で活躍した美術家を取り上げて、京都を中心とする近代美術の回顧、展望を試みること、さらに変貌を繰り返す現代美術の動向を国際的な視点から把捉し、その様相の紹介に努めることである。これらの方針は、例年6～7回の特別展・企画展の開催、常設展の実施及び美術作品や美術資料、図書その他の資料の収集などに反映されている。

### 2. 土地・建物

建面積	5,000.60㎡
延べ面積	9,761.99㎡
展示面積	2,604.94㎡
収蔵庫面積	1,176.70㎡

3. 定員 18人

4. 予算 769,232,000円

## 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
  - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
  - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
  - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
  - (4) 外部委託の推進
  - (5) 事務のO A化の推進
  - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
  - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

### 実績

1. 業務の一元化  
平成13年度から実施したものに加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。
2. 省エネルギー等(リサイクル)
  - (1) 光熱水量  
引き続き通知文書の発信、節水・節電の励行等、職員に対し省エネルギーの啓蒙を行った。  
平成15年度と比較すると、電気・ガス使用量は節約し得たが、水道使用量は増加した。これは、夏季において気温が平年を上回る猛暑のため、庭樹に散水を行ったことが主な要因である。しかし水道料金は、今年度より空調設備(クーリングタワー)からの蒸発水量について汚水排出量の減量認定の摘要を受けたため、下水道料金が認定水量1,838 m<sup>3</sup>、金額416,208円削減できた。結果、水道料使用量は増加したが、使用料は減少した。  
なお、光熱水料全体の金額比は3.9%減少している。  
ア. 電気 使用量 1,206,567kwh(前年度比 97.13%) 料金 21,914,447円(前年度比 97.75%)  
イ. 水道 使用量 7,538 m<sup>3</sup>(前年度比 107.17%) 料金 2,939,283円(前年度比 94.79%)  
ウ. ガス 使用量 112,262 m<sup>3</sup>(前年度比 89.66%) 料金 5,470,341円(前年度比 90.69%)
  - (2) 棄物処理量  
一般廃棄物量の減少について、展覧会のディスプレイ製作の際、使用する資材の使用量を抑制し、これに伴い発生する廃棄物量も抑制した。館内LANによる通知文書の発信及びサーバー保存文書の共通利用、会議資料他の両面コピー等により更なるペーパーレス化を推進した。  
産業廃棄物量の減少について、14年度及び15年度の館内清掃・整理作業の際、大量に大型ごみ等を処分したため、今年度は廃棄物がわずかしか発生しなかったため、処分しなかったためである。  
ア. 一般廃棄物 18,290Kg(前年度比 0%) 料金 0円(前年度比 0%)  
イ. 産業廃棄物 0Kg(前年度比 0%) 料金 0円(前年度比 0%)
3. 施設の有効利用  
展覧会のイベントとして講演会やシンポジウムを行い、他に団体鑑賞申込時に展覧会解説の申し出があれば、可能な限り、解説を行った。また、博物館実習、中学生のチャレンジ体験にも使用した。これらの内、施設使用許可書の発行と使用料の徴収を行って、各種団体に対し講堂・会議室等の使用を許可した。  
講堂等の利用率 23% (84日/366日)  
講演会 14回  
シンポジウム 1回  
パネル・ディスカッション 1回  
ワークショップ 4回

展覧会解説	31回
チャレンジ体験	9回
博物館実習	15回
理事会等	4回
講堂等使用許可分	2回(2日/366日)

#### 4. 外部委託

従来の業務のほか新たに、看視業務につき一般競争入札を導入し、外部委託を実施した。

- |                  |              |                   |
|------------------|--------------|-------------------|
| 1. 電気・機械設備運転管理業務 | 3. 機械警備業務    | 5. レストラン運営業務      |
| 2. 清掃業務          | 4. 収入金等集配金業務 | 6. ミュージアムショップ運営業務 |
| 7. 看視業務          |              |                   |

#### 5. OA化

館内LANの整備状況

全館内に整備されており、各職員(含非常勤職員)が1台ずつパソコンを使用できる環境にある。

館内LANにより、サーバー内に設けられている各係毎の共有文書ファイルが利用でき、また、電子メールにより事務連絡を行っている。

紙の使用量 222,500枚(前年度比97.8%)

A4 187,500枚

A3 22,500枚

B4 12,500枚

#### 6. 一般競争入札 一般競争入札件数 10件(総契約件数 42件)

本来、美術館は所蔵作品を多数保有しているという点、また、観覧者サービスという点から、一般競争入札は相応しくないが、経費節減に鑑み、平成15年度に引き続き清掃業務、電気・機械設備運転管理業務他について一般競争入札を行っている。

- 1 京都国立近代美術館建物の清掃一式
- 2 京都国立近代美術館電気・機械設備運転管理委託
- 3 京都国立近代美術館看視等業務
- 4 京都国立近代美術館受託美術品損害保険 一式
- 5 平成16年度国立美術館巡回展「近代日本洋画の名作展」出品作品の運送等
- 6 「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展 展示工作等一式の製造
- 7 「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」展 図録4,500部の製造
- 8 「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」展ポスターB2 1,800枚外5点の製造
- 9 「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」展 展示工作等一式の製造
- 10 「草間彌生 - 永遠の現在」展 展示工作等一式の製造

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

前年度と比較して、数値的には増減があるが、全般的に効率化された。

効率化

##### (1) 業務効率化

今まで2台の官用車で送迎及び作品等の搬送を行っていたが、今年度業務運営見直しの観点から必要時業者に委託したほうがよいと判断し、そのうちの1台(ワゴン)を売却し、業務の効率化及び今後の維持費節減を図り、かつ売却益(1,100,000円)を得た。

##### (2) 省エネルギー等の推進

今年度より空調設備(クーリングタワー)からの蒸発水量について汚水排出量の減量認定の摘要を受けため、下水道料金を大幅に削減できた。

##### (3) 外部委託の推進

今年度より常設展以外の展覧会において看視業務を外部委託した。

##### (4) 一般競争入札の導入

今後も業務の見直しを行い、美術館の事業に影響を及ぼさない可能な業務があれば、効率化と経費節減のため、一般競争入札を導入していきたい。

**【見直し又は改善を要する点】**

エネルギー使用量の削減についてはある程度達成できたが、今後も電気契約の見直し、省エネ機器への更新等効率化に向けてさらに検討・努力する必要がある。

**【計画を達成するために障害となっている点】**

開館より18年が経過し諸設備の経年劣化が目立ち、省エネルギーも思うように実施できない。設備を新規更新し得れば省エネルギー・効率化に資するものとする。

# 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1. 収集・保管

### (1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況

#### 中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

#### (京都国立近代美術館)

近代美術史における重要な作品など、近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した収蔵品の充実にも配慮する。

#### 実績

1. 購入	47件		
2. 寄贈	289件		
3. 寄託	161件		
4. 陳列品購入費	予算額	311,119,000円	決算額 315,801,600円

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

本年度は当初の計画の他に緊急を要する作品の購入があったため、国立国際美術館と平成16、17年の購入計画について話し合いを行い、今年度については国立国際美術館の作品購入費のうち1億円を当館で使用することとし、事前に理事会の承認を得て増額配分を受け藤田嗣治の最も油ののりきった時代の代表作 タピストリーの裸婦を購入した。

当初の計画に従って購入した作品は、工芸では石黒宗廣、タカエズ・トシコらの陶芸、富田幸七の漆芸などを購入し欠をうめることができた。本年度の展覧会に出品を予定していた八木一夫の 思案の中で など6点を購入し、所蔵品として展覧会に出品することができた。日本画では竹内栖鳳の最晩年の代表作 春雪 を購入したほか、国画創作協会の榊原紫峰や徳力富・郎、村上華岳の作品を購入し、華岳については17年度当初に予定している村上華岳展への出品を予定している。また、戦後作品としてはパンリアルの大野倭嵩の作品を計画的に購入をすすめた。洋画については藤田嗣治のほかに明治期京都を代表する水彩画家田中善之助の作品、また戦後の洋画界を代表する松谷武利、浅野弥衛の作品を購入した。

このほか、写真家東松照明の作品13点をまとめて購入するとともに77点の寄贈を受け、あわせて90点のまとまったコレクションとすることができた。また、ユージン・スミスの写真作品も計画的に購入をすすめた。

長谷川潔の初期の木版画の版木及び銅版画原版37点及び銅版画用道具等を遺族からまとめて寄贈を受け、長谷川芸術の研究にとって重要な資料を収蔵することができた。清水卯一の陶芸10点、並河靖之の七宝2点、杉本健吉の油彩、素描等17点、三尾公三の油彩画2点、堀内正和の版画5点、横尾忠則のポスター30点のほか、明治から大正期に京都で活動した日本画家千種掃雲宛の書簡等94点、戦後関西で美術記者として作家と交流があった塚本樹宛の書簡等72点の寄贈を受け、作品資料にわたる所蔵品の欠を補うことができた。

寄託作品として、新たに18件161点が加わり、カッサンドルのポスター、ウィリアム・ウェグマンの写真、橋本閑雪、横山大観、徳岡神泉らの日本画、長谷川三郎、梅原龍三郎の洋画のほか、神坂雪佳展を契機として雪佳の日本画及び雪佳図案の工芸等約70点をまとめて受託し、所蔵品の欠を補うことができた。

東松照明、長谷川潔のこのような寄贈があったのは美術館と作家あるいはその遺族との連絡を密にしていることに起因している。

##### 【見直し又は改善を要する点】

メディア・アートに対する収集については、約10年前から断続的に収集しており、クシュトフ・ウディチコの《ポリスカー》(平成9年)、宮島達男の《Slash》他1点(平成10年)、フィオナ・タンの《ゆりかご》(平成14年)などを所蔵しているが、1970年以降、関西を拠点とし現代美術史に残すべき重要な活動をした作家の作品を正当に再評価し収集することが課題としてあげられる。

【計画を達成するために障害となっている点】

当初の計画以外に緊急で高額な作品の購入が必要となった場合、予算で対応しきれないことがあるが今年度のように増額配分を受けるなど柔軟な予算執行が行えたことで緊急時に対応することができた。

\*添付資料

- 収集した美術作品の件数の推移（事業実績統計表 p.1）
- 寄託された美術作品の件数の推移（事業実績統計表 p.2）
- 購入・寄贈美術作品の一覧（事業実績統計表 p.20）

## （２）保管の状況

### 中期計画

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。
- (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

### 実 績

#### 1. 温湿度

##### (1) 展示会場

空調実施時間 9:00～17:00  
温度 冬季  $22 \pm 1$  夏季  $25 \pm 1$   
湿度 冬季  $57 \pm 2\%$  夏季  $53 \pm 2\%$

\* 展示会により設定は異なる。

- \* 入館者が入ったときの温湿度管理について  
1日4回温度と湿度を測定している。

- \* 24時間空調を行わない理由  
建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。

##### (2) 収蔵庫（24時間空調は行っていない）

空調実施時間 9:00～17:00  
温度 冬季  $21 \pm 1$  夏季  $23 \pm 1$   
湿度 50%（ただし、日本画・染織・漆芸は  $57 \pm 2\%$ ）

- \* 24時間空調を行わない理由  
建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。

#### 2. 照明 作品を劣化させる紫外線を含まない蛍光灯などの照明を使用している。

#### 3. 空気汚染

年2回ばい煙測定を行うことにより大気汚染物質を排出しないよう監視している。  
また、燻蒸は実施していない。

#### 4. 防災 管理室・機械室において自動火災報知器により管理している。時間外は機械警備により管理。

#### 5. 防犯 時間中は衛視による巡回警備を行い、時間外は機械警備により管理している。

### 自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】

保存カルテ作成件数は258件である。

収蔵品の保存及び管理環境の維持充実を図るため美術品の種類、保管場所等の違いにより、温湿度や照明等を適正に管理し、作品の劣化を最小限にとどめるよう努力しており、損傷もなく現在に至っている。展示会場や収蔵庫は24時間空調を行っていないが、これは建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を止めても作品保存の上で影響はない。むしろ現実に即した省エネ型の保存対応と考えている。

なお、平成15年度からは当館所蔵品による全国的巡回展を開始し、当年度も日本画作品を順次入れ替えしなが



ら巡回したため、日本画作品を点検する好機となった。また、国立美術館巡回展の担当館として当館所蔵品を中心に洋画の巡回展を行い、洋画作品を点検する機会ともなった。

**【見直し又は改善を要する点】**

収蔵作品を充実させるべく積極的に取り組んでいるが、現在すでに作品は収蔵庫の許容量を超えており、収蔵品の充実と保管状況の間に無理が生じ始めているため、平成17年度の概算要求にラックの増設の改修計画を提出しており緊急の課題となっている。将来的には新収蔵庫の建設も視野に入れておく必要がある。

### (3) 修理の状況

#### 中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

#### 実績

1. 日本画 16件 洋画 1件 版画 10件

緊急に修復を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野毎に計画的に修復を行った。

2. 決算額 14,742,951円

3. 修理経費 予算額 15,650,000円 決算額 14,742,951円

4. その他

修理報告書は各作品について作成しているが、データベース化については引き続き検討中である。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

収蔵時に修理を必要とするものであっても、そのために格安で購入したり、あるいは寄贈を受けることで、タイミングを逃さず収蔵することに積極的に取り組んでいる。そのため収蔵後数年を経て修理する場合もあるが、各年度当初において、中・長期的にみて緊急を要するもの(傷み具合、早期展示の必要性等)から順に修理を行うべく計画性をもって対応している。今回は平成16年度に寄贈を受けた伊藤仁三郎及び上坂雅人の作品を集中的に修理し、近く常設展のテーマ展示としてその成果を公開する予定である。

なお、修理業者に対しては、修理の方法について美術史的な観点から指導するとともに、鑑賞的な観点から表具や額装についても指導を行っている。

##### 【見直し又は改善を要する点】

作品の修理については、常に作品の状態を点検する体制にあることが望ましいが、このような仕事を専門的に行うレジストラと呼ばれる学芸職員を持たないため、点検上困難を伴うことがある。また修理についての専門的知識が少ないため、修理技術についての指導が行いにくい状況である。

\*添付資料

修理した美術作品の点数(事業実績統計表 p.3)

修理した美術作品の一覧(事業実績統計表 p.42)

## 2. 公衆への観覧

### (1) 展覧会の状況

#### 中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

#### (京都国立近代美術館)

年6～7回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。  
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。  
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

#### 実績(総括表)

##### 1. 常設展

展示替 18回 目標入館者数 13万2千人 入場者数 150,463人

##### 2. 特別展・共催展 10回

(中期計画記載回数：年6～7回)

(京都国立近代美術館)

「東松照明の写真1972 - 2002」(平成15年度事業として評価済)

期間：平成15年4月8日(火)～平成16年4月4日(日)

入場者数：58,166人(目標入場者数：5万5千人(うち平成16年度内1千人))

「彫刻家 堀内正和の世界展」

期間：平成16年3月13日(土)～4月18日(日)

入場者数：6,297人(うち平成16年度3,903人)(目標入場者数：1万人(うち平成16年度6千人))

「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR&ROLF&KCI」

期間：平成16年4月29日(木)～6月20日(日)

京都服飾文化研究財団と共催

入場者数：42,290人(目標入場者数：3万4千人)

「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」

期間：平成16年7月2日(金)～8月8日(日)

朝日新聞社と共催

入場者数：107,032人(目標入場者数：7万2千人)

「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」

期間：平成16年8月17日(火)～9月20日(日)

東京国立近代美術館と共催

入場者数：6,975人(目標入場者数：1万人)

「没後25年 八木一夫展」

期間：平成16年9月28日(火)～10月31日(日)

日本経済新聞社と共催

入場者数：16,417人(目標入場者数：1万2千人)

「ジャパニーズ・モダン - 剣持勇とその世界」

期間：平成16年10月8日(金)～11月3日(水・祝)

入場者数：12,795人(目標入場者数：6千人)

「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」

期間：平成16年11月9日(火)～12月19日(日)

東京国立近代美術館と共催

入場者数：9,590人(目標入場者数：1万2千人)

「草間彌生展 - 永遠の現在」

期間：平成17年1月6日(木)～2月13日(日)

東京国立近代美術館と共催

入場者数：30,313人(目標入場者数：1万2千人)

「京都国立近代美術館所蔵 - 川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」

期間：平成17年2月22日(火)～4月3日(日)

京都新聞社と共催

入場者数：14,400人(目標入場者数：1万1千人(うち平成16年度1万人))

3. 入館者数 394,963人 (目標入場者数307,000人)

「東松照明の写真1972 - 2002」, 「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR&ROLF&KCI」, 「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」, 「没後25年 八木一夫展」, 「ジャパニーズ・モダン - 剣持勇とその世界」, 「草間彌生展 - 永遠の現在」については予想を上回る入場者数を得たが、「彫刻家 堀内正和の世界展」は目標数にとどかなかった。また、目標入場者数に達しなかった「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」はブラジルあるいは同国の美術についての一般市民の関心の薄さが反映したものであり、これは第1会場である東京国立近代美術館の場合も同様であった。「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」は当館の特別展であったが、やはり現代美術に対する一般市民の近寄り難さがこの結果をもたらしたと考えられる。「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR&ROLF&KCI」, 「草間彌生展 - 永遠の現在」が目標入場者数を上回ったのは若年層に好評であったことにより、「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」が大幅に目標入場者数を上回ったのは、その知名度と大観の根強い人気によるものであった。現在開催中の「京都国立近代美術館所蔵 - 川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」は既に目標入場者数を達成しており、平成16年度は全体として目標入場者数を上回っている。

4. 国立美術館巡回展 2回 6,267人

京都国立近代美術館巡回展 4回 52,408人

5. 展覧会開催経費 予算額 138,664,000円 決算額 73,361,557円

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

近年、文化施設の入場者数は軒並みに減少傾向にあるが、美術館も例外ではない。そのような状況にあって、興行的傾向を強めることで、多くの入場者を獲得する方法もあるが、日本の美術館の本来あるべき姿を追求し、公立美術館の模範となるべき活動を展開することが国立美術館に求められていると考える。それは各館の性格を踏まえた上で、なおかつ内容のある多様な展覧会を企画、実施することであると考え、その意味で平成16年度は、地域についてはブラジル、欧米などの作品を紹介し、ジャンルにおいては日本画、洋画、彫刻、工芸、デザイン、写真など多岐にわたり、また、時代も近代から現代に及び、概ねバランスのとれた質的にも高い展覧会を開催することができた。今後も幅広く展覧会を企画する予定である。

平成15年度より、法人としての巡回展のほかに館独自の全国巡回展を企画し、今年度は日本画を、徳島県立近代美術館、島根県立美術館、茨城県立天心記念五浦美術館、北九州市立美術館に巡回した。これは、所蔵作品の活用のみならず、美術作品の優品を見る機会の少ない地域の美術文化向上に有益であるとともに、ナショナルセンターとしての機能を果たす取組みであり、同時に全国の公私立美術館との共同研究のネットワーク化につながる。

### 【見直し又は改善を要する点】

広報に関して、有料の広告媒体を増やすことは、予算的に難しい問題であるが、館独自の企画展の場合、展覧会に関する「話題性」を強調できればマスコミに取り上げられる機会が増えたのではないかと考える。

#### \*添付資料

入館者数の推移（事業実績統計表 p.4）

入場料収入の推移（事業実績統計表 p.7）

## 「常設展」

### 方 針

4階展示場約1,200㎡を所蔵品及び寄託品による、いわゆる常設展場にあてており、年間18回の展示替を行いながら所蔵作品等の各分野 - 工芸、日本画、油彩画、水彩画、素描、版画、彫刻、写真 - にわたって紹介している。

基本方針としては、近代日本の美術、工芸、写真について、系統的に展示することになっているが、未だコレクションが十全ではないことと、会場が決して広くはないために、十分な紹介は困難な状態にある。この欠を補うための収集活動（購入、寄贈、寄託）は積極的に行っているが、これは長い時間をかけるべき課題といえる。

なお、平成16年度末から常設展の名称を「コレクション・ギャラリー」に改め、これまで行ってきたコレクションによるテーマ設定もより具体化し、新たにコレクション・ギャラリー小企画展として、年間を通じてのテーマ、会期の予告を明確にして、事前の広報を行うようにする。

### 実 績

#### 1. 開会期間等

平成16年4月6日～平成16年4月11日（6日間）  
平成16年4月13日～平成16年5月16日（31日間）  
平成16年5月18日～平成16年5月30日（12日間）  
平成16年6月1日～平成16年7月4日（30日間）  
平成16年7月6日～平成16年8月1日（24日間）  
平成16年8月3日～平成16年8月22日（18日間）  
平成16年8月24日～平成16年9月5日（12日間）  
平成16年9月7日～平成16年10月3日（24日間）  
平成16年10月5日～平成16年10月17日（12日間）  
平成16年10月19日～平成16年10月31日（12日間）  
平成16年11月2日～平成16年11月14日（12日間）  
平成16年11月16日～平成16年12月5日（18日間）  
平成16年12月7日～平成16年12月19日（12日間）  
平成16年12月21日～平成16年12月26日（6日間）  
平成17年1月6日～平成17年1月30日（22日間）  
平成17年2月1日～平成17年2月20日（18日間）  
平成17年2月22日～平成17年3月6日（12日間）  
平成17年3月8日～平成17年4月3日（24日間（うち平成16年度21日））  
計306日間（平成16年3月まで）（所蔵品展のみの開催期間44日間）

当館のコレクションの特徴となっている長谷川潔（版画）、河井寛次郎（陶芸）、世界の写真は常に作品を入れ替えつつ、特設コーナーにおいて常時鑑賞できるように努めているが、一方、常設展に魅力を与えるべく小テーマを設定したテーマ展示も行っている。テーマの設定には(ア)3階の企画展との関連で決定するものと、(イ)全く単独で決めるものの2種類に大別でき、主な内容は次のとおりである。なお、平成17年度からは(ア)(イ)のテーマ展示にかえて(ウ)のコレクション・ギャラリー小企画展を中心に行う。

#### ア 3階の企画展と関連するもの（4回）

- ・横山大観と院展の作家達（横山大観展）
- ・山崎隆の歷程展、パンリアル展の出品（八木一夫展）
- ・八木一夫ゆかりの画家たち1949 - 1954（八木一夫展）
- ・所蔵洋画作品に見る「痕跡」（痕跡展）

イ 単独で企画したテーマ展示(30回)

- ・さくら
- ・庭園を描く
- ・初夏の風景
- ・山口八九子特集
- ・中秋の名月にちなんで
- ・山南塾(土田麦僊塾)の画家
- ・伊藤仁三郎と柏舟社の仲間
- ・トリ年にちなんで
- ・雪の季節に
- ・京都の洋画
- ・京都市立芸術大学ゆかりの洋画家たち
- ・海外の近代美術
- ・風景と庭園
- ・絵画の中の色彩
- ・戦後 海外で活躍した画家たち
- ・絵画表現の多様性
- ・河井寛次郎の陶芸
- ・外国のガラス工芸
- ・現代陶芸
- ・日本の現代工芸
- ・北大路魯山人の陶芸と近代日本の金工と染織
- ・近代日本の陶芸と染織
- ・日本の染織
- ・長谷川潔の木版画
- ・マチエール
- ・京まんだら
- ・ウエッグマンのポートフォリオ
- ・現代の写真表現
- ・アンセル・アダムスの写真
- ・女性の日本画家の世界

ウ コレクション・ギャラリー小企画展(1回)

- ・戦前の前衛 川西英旧蔵資料を中心に

2. 会場 4階常設展場

3. 出品点数

170件	211件	141件	103件	143件
168件	208件	146件	132件	136件
135件	209件	92件	135件	
140件	132件	103件	141件	
			延 2,645件	

4. 入館者数 150,463人 (目標入場者数 132,000人)  
うち常設展のみの入場者数 14,057人

5. 入場料金	一般420円(210円)、大学生130円(70円)、高校生70円(40円)、中学生以下無料 ( )内は団体
6. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計)	2,044,866円 (目標入場料収入 8,028,000円)
7. アンケート調査	
調査期間	平成16年4月1日~平成17年3月31日(306間)
調査方法	館内2箇所にアンケート箱を設置
アンケート回収数	1,919件
アンケート結果	・良い 37.1%(712件)・普通 31.5%(604件) ・悪い 3.1%(60件)・無記入 28.3%(543件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

常設展はそれぞれの美術館のコレクションをダイジェストして紹介するものであり、当館においては年20回近い展示替をし常設展示を行うなど、豊富なコレクションに支えられた他館には例のない活発な活動を行っている。年間を通じて開催している企画展とも連動したテーマを設けての特設コーナーは好評を得て、企画展の内容を広げる意味でも意義深く、また、単独で企画したテーマ展示の中には「山口八九子特集」、「伊藤仁三郎と柏舟社の仲間」など作家の再発見、再評価につながる展覧会を含み充実した内容となった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

「常設展」という名称が常に同じ作品が展示されているとの誤解を一般観覧者に与えることを踏まえ、平成16年度末から名称を「コレクション・ギャラリー」に改める作業を急ぐとともに、これまで行ってきたコレクションによるテーマ設定もより具体化し、新たにコレクション・ギャラリー小企画展として企画展同様、年間通じてのテーマ、会期の予告を明確にして、事前の広報も行えるよう作業を進めた。

# 「東松照明の写真1972 - 2002」(テーマ展示)

## (平成15年度事業として評価済)

### 方 針

1950年代から日本を代表する写真家として活躍する東松照明のカラー作品のみを取り上げた展覧会。東松のモノクロ写真は、日本を代表するドキュメンタリー写真の傑作として内外の評価は確立している。しかし、東松が1972年以降カラー写真にのみ取り組み、優れた作品群を制作していることへの評価は十分ではない。難解と言われる東松のカラー写真作品を、一般鑑賞者にも可能な限り分かり易く提示し、かつ段階的な理解の深化を促すことを目的とした。

### 実 績

1. 開会期間	平成15年4月8日(火)～平成15年5月5日(月)(25日間) 平成15年6月24日(火)～平成15年7月27日(日)(30日間) 平成15年7月29日(火)～平成15年8月31日(日)(30日間) 平成15年10月15日(水)～平成15年11月24日(月)(36日間) 平成15年12月23日(火)～平成16年2月8日(日)(33日間) 平成16年3月9日(火)～平成16年4月4日(日)(24日間) (平成16年度内は平成16年4月1日(木)～平成16年4月4日(日)(4日間))
2. 会 場	京都国立近代美術館4階常設展場
3. 主 催	京都国立近代美術館
4. 出品点数	全305件(36、50、50、75、36、58)
5. 入館者数	58,166人(うち平成16年度内785人) (目標入場者数 5万6千人(うち平成16年度内1千人))
6. 入場料金	一般420円(210円)/大学生130円(70円)・高校生70円(40円)/中学生以下無料 ( )内団体
7. 入場料収入	0円(目標入場料収入 0円)
8. 担当した研究員数	1人
9. 展覧会の内容	1950年代から現代まで、日本写真界の最前線で活躍を続けている東松照明の業績を全6回のシリーズで紹介する。
10. 講演会等	1回 参加人数 62人(15年度中に開催)
11. 広報	ポスター、チラシの作成・配布を中心とする広報、交通広告、看板広告、放送、パブリシティ情報掲載
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等	日本経済新聞社 平成15年4月14日「集合の美にせまる」(渡辺達治) 産経新聞社 平成15年4月16日「サクラへ、思い託す」(早瀬寛美) 長崎新聞社 平成15年4月27日「アート系に絞って選ぶ 一年を通し展示」 東愛知新聞社 平成15年5月2日「日本人の心象探る全6回」(高石) 産経新聞社 平成15年5月19日「「桜」にみる日本の原風景」(千野境子) 京都新聞社 平成15年8月30日「写真家の二つの影 - 東松照明の変容 - 」(清水穰)
13. アンケート調査	調査期間 平成15年10月15日(土)～4月4日(日)(93日間) 調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置



アンケート回収数 369件

アンケート結果 ・良い 28.5%(105件) ・普通 36.0%(133件)

・悪い 4.6%(17件) ・無記入 30.9%(114件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

30年にわたる東松のカラー写真作品を6つのテーマに分割し、一年間にわたって各約50点の作品を6回展示した。4階常設展の一室を使う連続した小展示により、通算300点以上の作品を展示する大規模展と同等の作品を紹介することができた。6回の連続した小展示により、東松の作品展開を容易に辿ることができ、難解な作品へ段階を追って鑑賞を進めることが出来た。今回の試みは、大規模観客動員は期待できないが、美術館が取り上げるべき重要な作家を紹介する展示手法の模索でもあり、美術館の試験的試みに好意的な反響が寄せられた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

一年にわたる連続した展示のため、遠距離からの鑑賞者から全体を通観することの困難さについての意見が寄せられた。また、長期にわたる連続展示のため、広報においても新しい取り組みが求められ、持久力のある広報活動の必要性を痛感した。

## 「彫刻家 堀内正和の世界」展（企画展）

### 方 針

京都に生まれ、日本の抽象彫刻の第一人者として知られる堀内正和の没後初めての大規模な回顧展として企画した。代表作をほぼ網羅し、堀内の作風の展開が一目でたどれるように構成するとともに、その着想の源とも呼ぶべき多数のマケットやドローイングを展示し、その創造の過程を紹介した。

### 実 績

1. 開会期間 平成16年3月13日(土)～4月18日(日) (32日間：平成16年度は16日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館  
協 力 京阪電鉄
4. 出品点数 80件
5. 入館者数 6,297人(うち平成16年度3,903人)  
(目標入場者数 1万人(うち平成16年度内6千人))

本展は日本の抽象彫刻を代表する作家であり、長く京都市立美術大学で教鞭を執った堀内正和の没後初めての本格的な回顧展であった。堀内の代表作をほぼ網羅した充実した内容であったにも関わらず、独自の企画展であったため広報力が弱く、また抽象彫刻という一般になじみにくい内容のためか、入館者が目標を下回った点が惜しまれる。

6. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)・高校生250円(200円・130円)/中学生以下無料 ( )内前売り・団体
7. 入場料収入 1,575,000円(目標入場料収入 2,920,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
日本の抽象彫刻を代表する作家堀内正和の没後初めての回顧展。初期の具象彫刻から晩年の立体作品にいたる約80点の作品、多数のペーパースカルプチュアやデッサンを展示し、創造の全貌を明らかにする。
10. 講演会等 2回 参加人数 92人(平成16年度に1回実施)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、看板広告、放送、パブリシティ情報掲載、関西元気文化圏参加事業
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
毎日新聞社 平成15年11月19日 「透徹した美学示す回顧展」(三田晴夫)  
日本経済新聞社 平成15年12月19日 「端正で静謐なフォルム」(竹田博志)  
朝日新聞社 平成16年度1月5日 「表裏を反転させた知的叙情」(田中三蔵)  
産経新聞社 平成16年3月31日 「横溢する知的な遊びの精神」(早)  
京都新聞社 平成16年4月3日 「洒脱な知的遊戯の魅力」(太田垣實)  
読売新聞社 平成16年4月14日 「紙の立方体に神秘と個性」(木村未来)  
京都新聞社 平成16年12月18日 「美術界この一年」(太田垣實)
13. アンケート調査  
調査期間 平成16年4月15日(木)～4月18日(日)(4日間)  
調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート  
アンケート回収数 448件

アンケート結果 ・とても良かった 42.4%(190件)・良かった 38.2%(171件)  
・まあまあ 11.4%(51件)・あまり良くなかった 0.2%(1件)  
・良くなかった 0.7%(3件)・無記入 7.1%(32件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

今回の展示では彫刻家の創造の秘密に迫るため、堀内のアトリエに残された多くのマケット（紙彫刻）を作品とともに展示した。きわめて理知的な造形を続けた堀内の場合であるからこそできた試みであったが、作家の創造の一端を示すものとして来場者には大変好評であった。作品のみならず、作家という個性、創造という営みの本質に迫る多角的な展示となったといえよう。

#### 【見直し又は改善が必要な点】

国立美術館として堀内正和のような重要な彫刻家の個展はこれまで開いてきたし、今後も取り組まなければならないことは明らかであるが、通常の展覧会に比べ、彫刻展、しかも抽象彫刻の展示に対して一般の関心がきわめて低く、入館者も少ない点は大きな反省点である。単に広報の方法を考えるだけでなく、日常的な美術館の活動をとおして抽象彫刻という一般になじみの低い分野への関心を深めることが必要と考えられる。

# COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR&ROLF&KCI」(企画展)

## 方 針

当館が1980年から京都服飾文化研究財団と共催で、ほぼ5年ごとに開催してきたファッションの展覧会。「美術館で見る衣装展」という啓蒙期を経て、今回はより深化し成熟した「展覧会」としての完成度と鑑賞者を無条件で楽しませる娯楽性との調和、ファッションを通じて幅広い文化との対話を目指した。

## 実 績

1. 開会期間 平成16年4月29日(木)～6月20日(日)(47日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、京都服飾文化研究財団
- 後 援 文化庁、経済産業省、オランダ大使館、オランダ総領事館、  
京都府教育委員会、京都市教育委員会 助 成 モンドリアン財団
- 特別協力 (株)ワコール、AIR FRANCE、(株)七彩、吉忠マネキン株式会社
4. 出品点数 90件
5. 入館者数 42,290人(目標入場者数:3万4千人)  
斬新なコンセプトと実験的な展示の試みが若い層から支持され、従来の衣装展の観客層が大幅に若返ったことが顕著であった。
6. 入場料金 一般1200円(1000円・900円)/大学生800円(600円・500円)/高校生600円(400円・300円)/中学生以下無料 ( )内は前売り・団体
7. 入場料収入 7,900,190円(目標入場料収入 6,885,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
5つのテーマ色の部屋を設定し、各部屋にテーマ色にあわせた衣装と壁面にファッションショーの映像投影を組み合わせた実験的な展示を行った。またオランダの気鋭のデザイナー、ヴィクター&ロルフをゲストキュレーターに迎え、作品選定と展示構成を共同で構想した。約90点の衣装と5つの映像作品が渾然となる会場となった。
10. 講演会等 6回 参加人数 862人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、看板広告、放送、パブリシティ情報掲載、関西元気文化圏参加事業
12. 展覧会関連新聞・雑誌掲載記事等  
産経新聞社 平成16年4月21日 「独創的手法で『21世紀』展示」(早瀬廣美)  
朝日新聞社 平成16年4月30日 「時代彩る服色々」(高橋真紀子)  
読売新聞社 平成16年4月30日 「モード アートな2人ヴィクター&ロルフ」(大森亜紀、山口景子)  
毎日新聞社 平成16年5月20日 「『ファッションと色彩』展 最近の傾向は形より色」(岸桂子)  
毎日新聞社 平成16年5月20日 「26日、ファッションショーで力作披露 デザインも自分で本格的洋服作り」(八田活輪)  
日本経済新聞社 平成16年5月24日 「5つの色で際立つ衣装」(原久子)  
京都新聞社 平成16年5月29日 「美術 服飾展示に新たな地平」(深萱真穂)  
毎日新聞社 平成16年5月30日 「ぼくもわたしもデザイナー 自作の服でモデルファッションショー」(八田活輪)  
朝日新聞社 平成16年6月1日 「美の現在 ファッションから美の本質探る」(高階秀爾)  
読売新聞社 平成16年6月2日 「色色々と服パワーに迫る」(山口景子)

京都新聞社 平成16年6月11日「夢のざわめきアート探訪 透明な身体へのまなざし 映像は現代生活の戯画」(鷲田清一)

朝日新聞社 平成16年6月12日「単眼複眼 ヴィクター&ロルフ色彩展 層をなす夢のファッション」(森本俊司)

### 13. アンケート調査

調査期間 平成16年6月17日(木)～6月20日(日)(4日間)

調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート

アンケート回収数 448件

アンケート結果 ・とても良かった 44.4%(199件)・良かった 38.6%(173件)  
・まあまあ 11.4%(51件)・あまり良くなかった 0.9%(4件)  
・良くなかった 0.7%(3件)・無記入 4.0%(18件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

斬新なコンセプトと展示構成、ファッションを通じてより大きな問題を考えようとする提案が、来館者、とくに若い層から大きな支持を受けたと評価できる。鑑賞者があたかもファッションショーのステージを歩くかのような体感的な展示は、美術館の展示手法に一石を投じたと確信する。また、展覧会に付随した様々な試み(大学の正規授業と展覧会関連企画の連携、シリーズ・ワークショップ、子供が制作する衣服とそのファッションショーなど)は、今後の美術館活動の可能性を探るものであった。

#### 【見直し又は改善が必要な点】

従来の「衣装展」を愛好する年輩の鑑賞者に、今回の展覧会の意図と意義について、やや説明不足であったと思う。

## 「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」(共催展)

### 方 針

当館では、主に京都や関西で活動した作家の展覧会を開催してきた。一方で、東京の作家を紹介することによって、お互いの相異点が浮かび上がり、更に京都や関西で活動する作家の特色がよりはっきり理解されるであろうと考え、昭和56年には速水御舟、平成13年には前田青邨の展覧会を開催している。そこで、今回は近代京都画壇の基礎を作った竹内栖鳳と並び称され、開催希望の声も多い、東京の近代日本画壇を代表する横山大観を取り上げ、展覧会を開催することとなった。大観芸術の紹介が目的なので、その流れが理解しやすいように、ほぼ年代順に展示することとした。

### 実 績

1. 開会期間 平成16年7月2日(金)～8月8日(日)(33日間)

2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場

3. 主 催 京都国立近代美術館、朝日新聞社

後 援 NHK京都放送局

協 力 横山大観記念館

協 賛 MK株式会社、近畿産業信用組合

4. 出品点数 70件

5. 入館者数 107,032人(目標入場者数 7万2千人)

横山大観は、近代の日本画家中最も知られた画家であるが、東京の画家であるために、京都ではそれほど動員が伸びないであろうと考え、目標数をやや抑えた。ところが、近畿では久しぶりの大観展であったためか、予想外の入場者数となった。

6. 入場料金 一般1200円(1000円・900円)/大学生800円(600円・500円)/高校生600円(400円・300円)/中学生以下無料 ( )内は前売り・団体

7. 入場料収入 24,491,960円(目標入場料収入 14,740,000円)

8. 担当した研究員数 3人

9. 展覧会の内容

再興院展を率い、近代日本美術史上に大きな足跡を残した横山大観の回顧展を開催する。本展では「夜桜」「紅葉」を含む大観の初期から晩年に至る代表作品約60点を選び、改めて「大観芸術」の足跡を辿るとともに、その偉大な画業を検証する。

10. 講演会等 2回 参加人数 300人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、朝日新聞社及びNHKを中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、京都市地下鉄)、看板広告、新聞広告、パブリシティー情報掲載、関西元氣文化圏参加事業

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

朝日新聞社 平成16年1月4日「横山大観展 夜桜と紅葉と」

日本経済新聞社 平成16年6月26日「京都新工場夏完成 大観展に100組200人」

京都民報 平成16年6月27日「京都の美術見てある記 横山大観と京都」(加藤類子)

朝日新聞社 平成16年6月27日「横山大観展」

朝日新聞社 平成16年6月29日「近代日本画壇の巨匠横山大観展 伝統と進取の極み」

朝日新聞社 平成16年7月4日「滝の絵は音が飛び出してくそう 大観芸術の世界に感嘆」

朝日新聞社 平成16年7月8日～10日連載「『横山大観展』から」

日本経済新聞社 平成16年7月9日京都で「『横山大観展』多様な表現内容たどる」

奈良新聞 平成16年7月13日「『近代日本画壇の巨匠横山大観展』から 困難をバネに新境地 日本画に西欧の技法取り入れ独自の世界」(小倉実子)

毎日新聞社 平成16年7月23日「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」

京都新聞社 平成16年7月31日「『イメージとしての大観』くつきり」(小林昌廣)

日本経済新聞社 平成16年8月2日「横山大観『海山十題』から『龍躍る』」(内)

読売新聞社 平成16年8月3日「横山大観展」

文部科学時報6月号 「近代日本画壇の巨匠 横山大観展」(小倉実子)

美術手帖8月号

### 13. アンケート調査

調査期間 平成16年8月5日(木)～8月8日(日)(4日間)

調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート

アンケート回収数 493件

アンケート結果 ・とても良かった43.2%(213件)・良かった40.6%(200件)  
・まあまあ11.2%(55件)・あまり良くなかった0.4%(2件)  
・良くなかった0.2%(1件)・無記入4.4%(22件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

横山大観展は、各地で何度も開催されており、それらとは違ったものとするために、今迄に殆ど出品されたことのない作品を集めるようにした。また、大観というと、豪放な一面が強調されがちであるが、意外に繊細な一面があり、その点がよく分かるような作品も集めてみた。40メートルの長巻《生々流転》を展示するにあたっては、一度に全部を出すことが出来なかったため、ほぼ半分づつを前・後期で巻替え展示せざるを得なかった。その代わりに、約二分の一の複製品をすぐ後ろに展示し、全体像を把握できるよう工夫した。大観の作品はよく知られているものが多く、それを目当てに訪れるお客様も多いことから、チラシをA4二つ折りとして主要作品をなるべく多く載せ、各々に展示時期を入れるようにした。

#### 【見直し又は改善が必要な点】

予想外の人出であったために、特に土曜、日曜などは動線が分かりづらく、やや会場が混乱してしまった。今後は、色々な場合を想定して会場作りをするようにしたい。

# 「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」（企画展）

## 方 針

いま世界の美術関係者の注目を集めながら、日本になじみの少ないブラジル現代美術の概容を歴史的背景を含みながら紹介し、将来におけるブラジル美術展開催の下地を形成すること。

## 実 績

1. 開会期間 平成16年8月17日(火)～9月20日(月・祝)(31日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館、Brasil Connects  
後 援 ブラジル大使館  
特別協賛 havainas  
協 賛 TOYOTA、松下電器産業株式会社、ブラジル銀行  
協 力 京阪電鉄
4. 出品点数 32件
5. 入館者数 6,975人(目標入場者数 1万人)  
質の高い展示内容であったが、一般にはなじみの薄いブラジル美術ということで、今ひとつ展覧会のアピール度が低かったと思われる。夏休み期間でもあり学生や若い層の来館者が期待を下回った。
6. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/高校生250円(200円・130円)/中学生以下無料 ( )内は前売り・団体
7. 入場料収入 3,215,450円(目標入場料収入 5,410,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
いま世界中で活躍する現代美術家5名とその原点となる3名の物故作家を、各部屋ごとの個展形式で展示。一部屋全体を使う大規模な作品により、体験的なインスタレーションやビデオ・インスタレーションなど、質の高い展示内容であった。
10. 講演会等 2回 参加人数 165人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、毎日新聞社を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、放送、看板広告、パブリシティー情報掲載、関西元気文化圏参加事業
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
日本経済新聞社 平成16年6月7日 アートカルチャー「ブラジル美術紹介 身体への関心テーマ」  
京都新聞社 平成16年7月10日「身体の“両義性”を多様なかたちで表現」  
朝日新聞社 平成16年7月15日「美術 身体が促す想像力の飛躍」(大西若人)  
京都新聞社 平成16年8月17日 「洛中洛外」  
読売新聞社 平成16年8月18日 「驚きのブラジル美術」  
朝日新聞社 平成16年8月19日 「ブラジルのエネルギー官能を」  
毎日新聞社 平成16年8月21日 「ギャラリー『痛みも喜びも全身で発散』」(岸 桂子)  
京都新聞社 平成16年8月28日 「ミュージアム『暴力の記憶：新田の再発見』」(深萱真穂)  
読売新聞社 平成16年9月6日 「生命力をたたえる実体としての身体」(木村未来)  
美術手帖8月号 「蝸轍する『身体』の想像力」(林道郎)  
アートトップ Vol199, 9月号 「大使に聞く世界の文化便り」  
まど 158号 「身体」をテーマに



### 13. アンケート調査

調査期間 平成16年9月17日(金)～9月20日(月・祝)(4日間)

調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート

アンケート回収数 413件

アンケート結果 ・とても良かった 20.8%(86件)・良かった 43.8%(181件)  
・まあまあ 22.0%(91件)・あまり良くなかった 3.4%(14件)  
・良くなかった 0.5%(2件)・無記入 9.5%(39件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

レプリカなどを用意し、鑑賞者が触れ体験できる作品を用意したこと、作品の中に入り体で体験する作品があったことなど、従来にない楽しめる展覧会として鑑賞者から好評を得た。細かい説明を必要とする作品が多く、この展覧会を期にオーディオ・ガイダンスの機材を導入し、小規模のグループには可能な限りのギャラリー・トークを実施した。

#### 【見直し又は改善を要する点】

一般になじみの薄い国の美術を取り上げる際の、より有効な広報の工夫が必要と思われた。

## 「没後25年 八木一夫展」(共催展)

### 方 針

陶芸の世界に新しい造形分野を切り開き、海外からも注目された八木一夫の没後25年にあたり、初期から晩年までの陶芸作品約300点によりその業績を回顧する展覧会である。

八木一夫は1918年、陶芸家八木一艸の長男として京都に生まれ、戦後間もない1946年、「青年作陶家集団」を結成して新しい陶芸を目指したが、2年後にはこれを解散し、鈴木治らと陶芸集団「走泥社」を結成した。また、イサム・ノグチのテラコッタやピカソの陶芸作品にも触発され、前衛的な陶芸を旨すようになり、1954年に発表した作品『ザムザ氏の散歩』でロクロを用いながらも器形を捨てた後、陶芸の概念を破った新造形を展開した。以後、焼成の偶然性を避けた無釉の焼締による力強いオブジェ作品を経て、黒陶という無機的で彫刻に近い表現が可能な手法により、造形的に一層の飛躍を果し、美に対する鋭い感覚と深い知性を備え、まれに見る才能を示した。1979年突然の死で、こうした作品制作は断たれたが、現在でも陶芸界においてその評価と影響は計り知れないものがある。その意味でも、没後25年にあたり再検証する意義がある。

### 実 績

1. 開会期間 平成16年9月28日(火)～10月31日(日)(30日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、京都新聞社  
協 力 司馬遼太郎記念館、ANA
4. 出品点数 308件
5. 入館者数 16,417人(目標入場者数 1万2千人)

本展は、没後25年となった八木一の回顧展であり、八木の友人、知人、教え子など生前の八木を知る人が多くいたため、30日間という短い開催期間であるにも関わらず、それらの人々による宣伝、広報を得られ目標人数を超える観覧者となった。また、テレビや雑誌に特集され、紹介されたことも目標人数を超えた要因といえる。カタログも3000冊近く売れ、入館者数に対する割合ではたいへん高い割合となり、関心の高さを知ることができた。

6. 入場料金 一般1,200円(1000円・900円)/大学生800円(600円・500円)/高校生600円(400円・300円)/中学生以下無料 ( )内は前売り・団体
7. 入場料収入 2,730,530円(目標入場料収入 2,334,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容

本展は、陶芸の世界に新しい造形分野を切り開き、海外からも注目された八木一夫の没後25年にあたり、初期から晩年までの陶芸作品約300点によりその業績を回顧する展覧会であった。初期から晩年までの陶芸作品を中心に、ガラス作品、ブロンズ作品、八木自身が撮った映像などを交え、日本のみならず海外への影響も紹介し検証した。

10. 講演会等 2回 参加人数 126人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、日本経済新聞社、NHK京都放送局、京都新聞社を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、京都市地下鉄)、看板広告、新聞広告、パブリシティ情報掲載、関西元気文化圏参加事業

### 12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

日本経済新聞社 平成16年10月6日 「造形。優れた陶技が裏打ち―八木一夫展」(竹田博)  
京都新聞社 平成16年10月9日 「八木一夫展に寄せて(上) 人と芸術考」(梅原猛)

京都新聞社 平成16年10月16日 「八木一夫展に寄せて(中) 人と芸術者」(八木明)  
 毎日新聞社 平成16年10月21日 「没後25年の八木一夫展 伝統を知り尽くした深さ、  
 伝統に縛られない軽快さ」(岸桂子)  
 京都新聞社 平成16年10月23日 「八木一夫展に寄せて(下) 世界における評価」  
 (ルイス・アリスン・コート)  
 朝日新聞社 平成16年10月23日 「単眼複眼 陶芸家八木一夫回顧展 『時代の子』大きなゆるぎ」  
 (森本俊司)  
 産経新聞社 平成16年10月24日 「詩(うた)を吹き込まれた陶芸」(早瀬廣美)  
 京都民報 平成16年10月24日 「京都の美術見てある記 陶芸家のあり方示した異才」(外館和子)  
 読売新聞社 平成16年10月27日 「没後25年八木一夫展 古都が生んだ革新的な陶芸」(木村未来)  
 京都新聞社 平成16年12月18日 「美術界この1年 - 京都・関西を中心に」(太田垣實)  
 アートトップ Vol199, 9月号  
 芸術新潮10月号  
 銀花 冬号(Vol.140)

### 13. アンケート調査

調査期間 平成16年10月28日(木)～10月31日(日)(4日間)  
 調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート  
 アンケート回収数 424件  
 アンケート結果 ・とても良かった 46.7%(198件)・良かった 35.9%(152件)  
 ・まあまあ 8.5%(36件)・あまり良くなかった 0.2%(1件)  
 ・良くなかった 0.2%(1件)・無記入 8.5%(36件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

没後25年にあたり、遺族所蔵の資料や美術館の本来の使命である調査研究により、新しい資料や行方不明であった作品など多くの新成果が得られたことは、八木一夫ならびに現代陶芸や工芸、さらには美術の研究にも大きく貢献できたことは良い点であったと思う。実際、開催中にも多くの方々から情報や新資料などの教示があり、展覧会を契機に八木一夫の仕事を再度検証する気運が高まった。また、外国からの観覧者も含め何度も来館する鑑賞者も多くおり、国内外の人々に八木一夫という作家と作品の魅力を理解していただけたことも良い結果であった。カタログも入館者数に対し、コンスタントに高販売率を保った。本展は、当館が中心に企画構成し、全国の公立4美術館に巡回する大型巡回展として開催され、現在も巡回中であり、各所での評判も高まると思う。

#### 【見直し又は改善を要する点】

会期が30日間と短いため、来館者から開催時期の延長などの声もあった。広報、宣伝も努力したが、展覧会前半は入館者数に伸びはなかった。このことは、少しでも早めに広報、宣伝活動をしなければならないということであり、その点は改善するべき事である。また、広報、宣伝もポスター、チラシだけではなくテレビやインターネットを通じた電子媒体による方法も検討しなければならないと思う。たとえば、人気のあるホームページへのバナー広告や広報宣伝メールの配信など検討項目としてあげられる。

## 「ジャパニーズ・モダン - 剣持勇とその世界」(企画展)

### 方 針

日本のインテリア・デザイナーの先駆者・剣持勇の仕事を、戦前・戦後の日本の社会の変遷の中で再評価し、剣持の業績に正当な光を当てること。

### 実 績

1. 開会期間	平成16年10月8日(火)～11月3日(水・祝)(23日間)
2. 会 場	京都国立近代美術館1階ロビー
3. 主 催	京都国立近代美術館
企画協力	剣持デザイン研究所、松戸市教育委員会
協 賛	(株)天童木工、秋田木工株式会社、(株)ワイ・エム・ケー、(株)コトブキ、(株)ダスキン、(有)モノ・モノ
4. 出品点数	163件
5. 入館者数	12,795人(目標入場者数 6千人) インテリア・デザイナー剣持勇という地味な対象であったが、予想を超えた大きな反響があった。建築・デザインの専門家だけでなく、一般の鑑賞者の身近な生活デザインに対する関心の高さを伺わせた。
6. 入場料金	一般420円(210円)/大学生130円(70円)・高校生70円(40円)/中学生以下無料 ( )内は団体
7. 入場料収入	658,320円(目標入場料収入 1,384,000円)
8. 担当した研究員数	1人
9. 展覧会の内容	戦前の工芸近代化運動における剣持の役割、ドイツ人建築家ブルノ・タウトとの出会いによる「日本の美意識」の再発見、日本美と近代デザインの止揚としての「ジャパニーズ・モダン」の確立を、いま収集可能な家具、工業製品、写真資料等230点で総合的に紹介した。
10. 講演会等	1回 参加人数 20人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報	ポスター、チラシの作成・配布、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、看板広告、新聞広告、放送、パブリシティー情報掲載、関西元気文化圏参加事業
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等	京都新聞社 平成16年10月20 「デザイナー剣持勇 全ぼう知る展覧会」 J SELECT 10・11月号 芸術新潮 2月号
13. アンケート調査	調査期間 平成16年10月8日(火)～11月3日(水・祝)(23日間) 調査方法 館内2箇所にアンケート箱を設置 アンケート回収数 213件 アンケート結果 ・良い 57.3%(122件)・普通 18.8%(40件)・悪い 0%(0件) ・無記入 23.9%(51件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

中規模な展覧会であったが、没後初めての総合的な展覧会としての意義は高かった。また鑑賞者が座ることのできる椅子を複数用意し、剣持の家具を体感してもらう工夫を行った。

#### 【見直し又は改善を要する点】

剣持勇についての再評価の端緒となる展覧会であり、十全な研究が完了したとはまだいえない。残された資料のより詳細な調査研究が必要である。

## 「痕跡 - 戦後美術における身体と思考」(特別展)

### 方 針

本展は戦後美術を検証する、京都国立近代美術館としては久しぶりの展覧会であり、戦後美術を「痕跡」という独特の観点から日本と欧米の現代美術を概観した。日本のみならず世界各地の数年にわたる作品調査を背景に、60作家約120点の大作によって構成される大展覧会となり、これまで日本で紹介されることの少なかった重要な作家や動向の作品を紹介することもこころがけた。またカタログも充実を期し、現在最先端で活躍する欧米の美術史家や批評家の寄稿を仰いだ。

### 実 績

1. 開会期間 平成16年11月9日(火)～12月19日(日)(36日間)

2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場及び4階常設展示場

3. 主 催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館

協 力 資生堂、日本航空、京阪電鉄

4. 出品点数 126件

5. 入館者数 9,590人(目標入場者数 1万2千人)

本展は日本と欧米の戦後美術を独自の観点から概観し、その同時性や共通性を探る野心的な試みであり、若い世代を中心に大きな反響があった。しかしながら一般の来場者を望みにくい現代美術のテーマ展であり、かつ開催された時期も年末の繁忙な時期であったためか、目標とした入場者数を下回る結果に終わったことは残念であった。展覧会の反響は予想外に大きく、別に示したとおり、従来のような新聞や雑誌の美術記事のみならず、英字新聞や思想や文学を扱う多くの雑誌にも紹介記事が掲載された。

6. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/高校生250円/  
(200円・130円)/中学生以下無料 ( )内は前売り・団体

7. 入場料収入 3,220,070円(目標入場料収入 5,840,000円)

8. 担当した研究員数 1人

9. 展覧会の内容

1950年代から70年代の日本、アメリカ、ヨーロッパの現代美術を約60人の作家、120点余の作品によって紹介する。ジャンルも平面から立体、映像、インスタレーションと多岐にわたる。

10. 講演会等 3回 参加人数 189人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)

11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、看板広告、新聞広告、放送、パブリシティ情報掲載、関西元気文化圏参加事業

12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等

日本経済新聞社 平成16年11月25日 「破壊と暴力 過激な表現」

ぴあ株式会社 平成16年11月18日 「深い思考と偶然が生んだインパクト大の美術作品」(古川誠)

The Japan Times Nov 24 “ The heyday of body art ” Matthew Laarking

京都新聞社 平成16年11月27日 「同列にまみえる内外の作品」(岩本敏朗)

読売新聞社 平成16年12月8日 「2004回顧 三氏が選ぶ展覧会ベスト5」

毎日新聞社 平成16年12月11日 「現代美術の体温伝わる」(岸桂子)

日本経済新聞社 兵営16年12月16日 「芸術文化2004 現代美術の検証に収穫」

読売新聞社 平成16年12月17日 「生の現実感 鮮烈に」(木村未来)

毎日新聞社 平成16年12月18日 「美術この一年 印象に残った五つの展覧会」

読売新聞社(九州版) 平成16年12月18日 「九州派再評価に期待」(小林清人)

東京新聞社 平成16年12月26日 「出版この一年 今年の三冊」(岡崎乾二郎)

現代詩手帖 2004年1月号 「現代美術の起源へ」(倉石信乃)

Herald Tribune Jan 28 “ Even hands-off artists make their presence felt ” Jeff Michael Hammond

芸術新潮 2004年2月号 「Re-membering Jacque Derrida」(浅田彰他)  
美術手帖 2004年2月号 「痕跡という眩暈」(清水穰)  
未来 2004年2月号 「痕跡の交錯と重層 戦後美術の挑発」(林道郎)  
読売新聞社 平成17年2月11日 「裂く、焼く - 痕跡の作品展」(前田恭二)

### 13. アンケート調査

調査期間 平成16年12月16日(木)～12月19日(日)(4日間)  
調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート  
アンケート回収数 387件  
アンケート結果 ・とても良かった 26.9%(104件)・良かった 41.1%(159件)  
・まあまあ 22.5%(87件)・あまり良くなかった 4.1%(16件)  
・良くなかった 1.8%(7件)・無記入 3.6%(14件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

現代美術はわかりにくいという通説を覆す意味で、膨大な作品の一点一点に詳細な解説を付して会場に掲示した。文字が小さいという苦情もあったが、アンケート等を参照するならば解説をつけたことは大変好評であった。大作が多く、広い会場が必要とされたため、四階の常設展示室の一部も使用して展示を行なった。内容が未成年者に対してはいささか過激と思われる作品については小部屋の中に設置し、入口にその旨を明記した。また会期中に気鋭の美術史学者を招いて行なったシンポジウムは「痕跡」という問題がはらむ普遍性を美術全般において検証する意味で意義深く、来聴者にも好評であった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

内容が高度であったとはいえ、より多くの人々にアピールする必要がある点は否めない。今後はプレスリリース等で事前により効果的に多くの人々に周知する方法を検討する必要があるように思われる。来場者としては若い学生が多かったが、これらの来場者をリピーターとして今後も美術館に通わせるための方法についても検討の余地があるように思われる。

## 「草間彌生展 - 永遠の現在」(特別展)

### 方 針

76歳でありながら世界中を舞台に、いまだ現役として活躍する現代美術家・草間彌生の関西で初めての大規模な展覧会。その作品と表現世界の全貌をできるだけわかりやすく紹介する。

### 実 績

1. 開会期間 平成17年1月6日(木)～2月13日(日)(34日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場及び4階常設展示場及び1階ロビー
3. 主 催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館  
協 力 京阪電鉄
4. 出品点数 106件
5. 入館者数 30,313人(目標入場者数 1万2万人)  
関西でのなじみの薄さを危惧したが、予想を上回る大きな反響があった。特に若い層の関心が高く、入場者の6割以上が30代以下の若者であったと思われる。
6. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/高校生250円/  
(200円・130円)/中学生以下無料 ( )内は前売り・団体
7. 入場料収入 17,021,560円 (目標入場料収入 5,840,000円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
初期作品から現在まで、約100点の作品を厳選し、草間の作品世界の多面性を丁寧に紹介する内容であった。草間の作品世界をより深く理解してもらうため、年代順に並べることをやめ、10のセクションに分けたテーマ展示とした。
10. 講演会等 1回 参加人数 104人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、日本経済新聞社・京都新聞社を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、看板広告、放送、パブリシティ情報掲載、関西元気文化圏参加事業
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
朝日新聞社 平成16年12月1日 「前衛と時代がシンクロ」(西田健作)  
読売新聞社 平成16年12月8日 「回顧2004 美術、4氏が選んだベスト5」(中原祐介)  
朝日新聞社 平成16年12月13日 「私の3点」(建畠哲)  
日本経済新聞社 平成16年12月14日 「回顧2004美術」(宝玉正彦)  
朝日新聞社 平成17年1月8日 「愛」「生」「死」を問う106点  
毎日新聞社 平成17年1月13日 「ギャラリー」(岸桂子)  
読売新聞社 平成17年1月24日 「美術 草間彌生 永遠の現在 無限の水玉で宇宙の自然に返る」  
(木村未来)  
毎日新聞社 平成17年1月28日 「美術 草間彌生 永遠の現在展 輪廻転生に似た無限連続の世界」  
(加藤義夫)  
京都新聞社 平成17年1月29日 「美術 出発点の京都で初の大個展 草間彌生展」(太田垣實)  
産経新聞社 平成17年2月2日 「アート 草間彌生展『水玉』の数だけ『何故』がある」(丸山茂幸)  
関西ウォーカー 1月5日～1月18日号  
美術手帖 2005年2月号  
わーずわーす 2月号  
観光情報京都 1月号

### 13. アンケート調査

調査期間 平成17年2月10日(木)～2月13日(日)(4日間)  
調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート  
アンケート回収数 451 件  
アンケート結果 ・とても良かった 47.7%(215件)・良かった 42.1%(190件)  
・まあまあ 8.0%(36件)・あまり良くなかった 0.4%(2件)  
・良くなかった 0.7%(3件)・無記入 1.1%(5件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

3階会場をメインとしながら、一階から4階までの美術館全体を使う展示が好評を集めた。作品の中を通過し、また部屋の中に入る大規模なインスタレーションもあり、体全体で作品と対話する来館者の生き生きとした反応を呼び起こした。

#### 【見直し又は改善を要する点】

当初の予想の2倍以上の来館者があり、会期末には2千人を超える入場者に会場設計が対応しきれなかった点。



## 「京都国立近代美術館所蔵 - 川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」(共催展)

### 方 針

本展は、1890年、島根県安来市に生まれ、1920年京都五条坂で鐘溪窯を開窯し生涯作陶を続けた河井寛次郎陶芸の全貌を紹介する展覧会である。初期の中国や朝鮮の古陶磁の手法を逐った作品や柳宗悦と出会って繰り広げられた中期の民藝作品、後期の自由な造形を追い求めて制作した作品などで寛次郎の世界を紹介するものであり、出品する作品は、1921年、寛次郎に最初に会ってから1966年没するまで最大の理解者で後援者であった故川勝堅一氏が、寛次郎とともに作り上げたコレクションの中から、当館に寄贈された425点の優品より約250点で陶工河井寛次郎の世界を展観する。

### 実 績

1. 開会期間 平成16年2月22日(火)～4月3日(日)(36日間:平成16年度は33日間)
2. 会 場 京都国立近代美術館3階企画展示場
3. 主 催 京都国立近代美術館、京都新聞社  
協 力 京阪電鉄
4. 出品点数 250件
5. 入館者数 14,400人(目標入場者数 1万1千人(うち平成16年度内1万人))
6. 入場料金 一般800円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)・高校生250円(200円・130円)/中学生以下無料 ( )内前売り・団体
7. 入場料収入 3,311,110円(目標入場料収入 2,065,500円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
河井寛次郎陶芸の全貌を紹介する展覧会で、初期の中国や朝鮮の古陶磁の手法を逐った壺や茶碗などの作品や柳宗悦と出会って繰り広げられた中期の民藝作品、後期の自由な造形を追い求めて制作した作品などで寛次郎の世界を紹介する。
10. 講演会等 1回 参加人数 133人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 ポスター、チラシの作成・配布、京都新聞社を中心とする広報、交通広告(京阪電鉄、京都市バス・地下鉄)、看板広告、放送、パブリシティー情報掲載、関西元氣文化圏参加事業
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
京都新聞社 平成17年1月4日 京都新聞社本社文化事業  
京都新聞社 平成17年1月23日 社告  
京都新聞社 平成17年2月9日 社告
13. アンケート調査  
調査期間 平成17年3月31日(木)～4月3日(日)(4日間)  
調査方法 ボランティアによる聞き取りアンケート  
アンケート回収数 件 (平成17年度に記載する。)  
アンケート結果 ・とても良かった % ( 件) ・良かった % ( 件)  
・まあまあ % ( 件) ・あまり良くなかった % ( 件)  
・良くなかった % (1件) ・無記入 % ( 件)
14. その他

## 自己点検評価

平成17年度に記載する。

## 独立行政法人国立美術館所蔵巡回展「近代日本洋画の名作」

### 方 針

当館所蔵の洋画の代表作52点に、東京国立近代美術館所蔵品を加えた58点によって、明治時代中期から昭和時代へといたる我が国の洋画表現の動向を紹介する。

### 実 績

1. 開会期間	平成16年7月24日(土)～平成16年8月29日(日)(37日間)
2. 会 場	新津市美術館
3. 主 催	京都国立近代美術館、新津市美術館、新潟県教育委員会、新津市文化振興財団
共 催	新津市、新津市教育委員会
後 援	ラジオチャット・エフエム新津
4. 出品点数	58 件
5. 入館者数	3,200人 国立美術館全体としては2回 6,267人(平成12年度実績:2回 11,959人)
6. 入場料金	一般600円/大学・高校生300円/中学生以下無料
7. 担当した研究員数	1 人
8. 展覧会の内容	明治中期から大正・昭和の近代日本を代表する洋画家の作品から戦後の作品まで、54人の画家、58点の作品を、「京都の洋画」「大正から戦前の前衛絵画」「近代洋画の名作」「戦後の洋画」の4つのセクションに分けて、京都国立近代美術館と東京国立近代美術館の所蔵作品によって紹介した。
9. 講演会等	1回 54人 7月25日 演題:「日本洋画の130年」 講師: 京都国立近代美術館学芸課長 島田 康寛
10. 広 報	ポスター、チラシを中心とする広報、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティ情報掲載、等
11. アンケート調査	調査期間 平成16年7月24日～平成16年8月29日(37日間) 調査方法 館内にアンケート箱を設置 アンケート回収数 200件 アンケート結果 ・大変良い 34%(68件) ・良い 50%(100件) ・普通 11.5%(23件) ・あまり良くない 1%(2件) ・良くない 0%(0件) ・無回答 3.5%(7件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

一般的に「近代」といえば「東京」をイメージしがちなところを、「京都」を通して、日本の近代洋画を見ることができ、良かった。また、この点が今回の展覧会の特色になったと思う。安井曾太郎・梅原龍三郎という2巨匠が京都出身であることも再認識でき、「日本」の文化を考える良い機会になったと思う。また、子供にもわかりやすい文章で、ひらがなを多用した大きな文字の作品解説パネルは好評だった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

日本の近代洋画というと一般的に地味な印象があるので、いわゆる美術ファン以外にもアピールするようにサブタイトルやキャッチコピーなどを工夫するなど、より効果的なPR戦略が打ち出せれば良かったと思う。

## 独立行政法人国立美術館所蔵巡回展「近代日本洋画の名作」

### 方 針

当館所蔵の洋画の代表作52点に、東京国立近代美術館所蔵品を加えた58点によって、明治時代中期から昭和時代へといたる我が国の洋画表現の動向を紹介する。

### 実 績

1. 開会期間	平成16年9月4日(土)～平成16年10月11日(月・祝)(33日間)
2. 会 場	砺波市美術館
3. 主 催	京都国立近代美術館、砺波市美術館、富山県教育委員会、北日本新聞社
共 催	チューリップテレビ
後 援	となみ芸術文化友の会、FMとなみ、となみ衛星通信テレビ
4. 出品点数	58 件
5. 入館者数	3,067 人 国立美術館全体としては2回 6,267人(平成12年度実績:2回 11,959人)
6. 入場料金	一般600円/大学・高校生300円/中学生以下無料
7. 担当した研究員数	1 人
8. 展覧会の内容	明治、大正期の京都洋画界の作品をはじめ、それ以降の前衛絵画を含めた日本洋画の名作を、戦前、戦後と分けながら昭和50年代まで紹介した。
9. 講演会等	1 回 48 人 9月 4日 演題:「近代日本洋画の130年」 講師: 京都国立近代美術館学芸課長 島田 康寛
10. 広 報	ポスター、チラシを中心とする広報、交通広告、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティー情報掲載、等
11. アンケート調査	調査期間 平成16年9月4日～平成16年10月11日(33日間) 調査方法 館内にアンケート箱を設置 アンケート回収数 84件 アンケート結果 ・良い 80%(68件)・普通 15%(13件)・悪い 4%(3件) ・無記入 1%(1件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

これまで、作家の個展や現代の作家を集めた展覧会が多かったが、今回、日本洋画の流れを辿ることができる展覧会を開催できたのは良かったと思う。また、多くの観覧者に作品解説が好評であった。館外初出品作や国立美術館の看板作品が出展されたことは大変有意義であった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

「近代日本洋画の名作」というタイトルが漠然としていて、内容の良さが伝わらないように思う。サブタイトルやキャッチコピーなどをもっと工夫すれば、入館者数は増加したと思う。

## 京都国立近代美術館所蔵巡回展

### 「京都国立近代美術館所蔵日本画名品展 京都画壇一世紀の輝き」

#### 方 針

当館所蔵品の中から京都の日本画の名品や各時代の話題作や時代を画した作品を選び、京都画壇100年の展開を紹介する。

#### 実 績

1. 開会期間 平成16年4月24日(土)～平成16年6月6日(日)(38日間)
2. 会 場 徳島県立近代美術館
3. 主 催 京都国立近代美術館、徳島県立近代美術館、徳島新聞社、四国放送  
後 援 NHK徳島放送局、エフエム徳島、徳島県文化協会
4. 出品点数 71 件
5. 入館者数 7,739 人
6. 入場料金 一般600円/大学・高校生450円/中学・小学生300円
7. 担当した研究員数 2 人
8. 展覧会の内容 京都国立近代美術館が所蔵する日本画の中から、1880年代からおよそ一世紀の間に描かれた57作家71点の作品を紹介した。
9. 講演会等 4 回 259 人  
4月29日 展示解説 講師：徳島県立近代美術館 森芳功  
5月 5日 展示解説 講師：徳島県立近代美術館 仲田耕三  
5月30日 展示解説 講師：徳島県立近代美術館 森芳功  
6月 5日 こども鑑賞クラブ 講師：徳島県立近代美術館 森芳功、竹内利夫、門倉摩耶
10. 広 報 ポスター、チラシを中心とする広報、交通広告、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティー情報掲載、等
11. アンケート調査  
調査期間 平成16年4月24日～平成16年6月6日(38日間)  
調査方法 館内にアンケート箱を設置  
アンケート回収数 1,922件  
アンケート結果 ・良い 87.8%(1687件)・普通 10.5%(202件)・悪い 0.6%(12件)  
・無記入 1.1%(21件)

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

近代京都画壇の日本画名品をまとめて紹介する今回の展覧会では、日本画の鑑賞に親しんでもらうため、一般の方にも好評であった「こどもワークシート」を作成したことや、小学生を中心に「こども鑑賞クラブ」と名付けた鑑賞講座を行ったこと、また、学校からの団体鑑賞を受け入れ、対話型の解説を行うなど学校連携事業として児童生徒に鑑賞の楽しさやポイントを伝える良い試みとなった。

##### 【見直し又は改善を要する点】

会場コーナーパネルに作家ごとの略歴パネルを設置したが、それ以外に作家ごとの説明が欲しいという要望があった。また、出品リストに、作家名、作品名のふりがなを記して会場に配布したが、会場キャプションにも記してほしいという声や、結界を設けた作品の場合、キャプションや略歴が読みにくいという指摘もあり、今後改善して行きたいと思う。

## 京都国立近代美術館所蔵巡回展

### 「京都国立近代美術館所蔵日本画名品展 京都・近代日本画のきらめき」

#### 方 針

当館所蔵品の中から京都の日本画の名品や各時代の話題作や時代を画した作品を選び、京都画壇100年の展開を紹介する。

#### 実 績

1. 開会期間	平成16年7月30日(金)～平成16年8月29日(日)(27日間)
2. 会 場	島根県立美術館
3. 主 催	京都国立近代美術館、島根県立美術館、山陰中央新報社
後 援	朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、日本経済新聞社松江支局、中国新聞社、新日本海新聞社、島根日日新聞社、NHK松江放送局、山陰中央テレビ、山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、山陰ケーブルビジョン
4. 出品点数	69 件
5. 入館者数	9,239 人
6. 入場料金	一般1,000円(800円)/大学生600円(450円)/高校・中学・小学生300円(250円) ( )内は団体
7. 担当した研究員数	1 人
8. 展覧会の内容	京都国立近代美術館所蔵の京都画壇作家の体系的なコレクションの中から55作家、69点の作品を選びすぐって展示。
9. 講演会等	1 回 70 人 8月 7日 演題:「京都・近代日本画の魅力」 講師: 京都国立近代美術館学芸課長 島田 康寛
10. 広 報	ポスター、チラシを中心とする広報、交通広告、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティー情報掲載、等
11. アンケート調査	調査期間 平成16年7月30日～平成16年8月29日(27日間) 調査方法 館内にアンケート箱を設置 アンケート回収数 88 件 アンケート結果 ・良い 87.5%(77件)・普通 12.5%(11件)・悪い 0%(0件) ・無記入 0%(0件)

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

京都画壇の流れについて、代表的作家の優品を時代順に展示でき、大変有意義なものとなった。作風も京都らしい優美なもの、デカダン(退廃的)なもの、戦後前衛的なものとバラエティに富み、見ていて飽きないものだった。特に上村松園や甲斐庄楠音の美人画、パンリアル作家による立体的な作品等が関心を呼んだ。

##### 【見直し又は改善を要する点】

記録的な猛暑で客足が鈍かったことや、島根高校総体が同時期に開催しており、関係者の来館を期待したがあまり効果はなくむしろ、一般観光客が総体の影響を受け、宿泊施設が確保できない等の理由で、県内の観光客数が減少したと予想される。今後は開催時期についても検討の必要があると思われる。

## 京都国立近代美術館所蔵巡回展

### 「京都国立近代美術館所蔵 京都日本画の精華」

#### 方 針

当館所蔵品の中から京都の日本画の名品や各時代の話題作や時代を画した作品を選び、京都画壇100年の展開を紹介する。

#### 実 績

1. 開会期間 平成16年10月16日(土)～平成16年11月28日(日)(39日間)
2. 会 場 茨城県立天心記念五浦美術館
3. 主 催 京都国立近代美術館、茨城県立天心記念五浦美術館  
協 賛 株式会社ボンベルタ伊勢甚 日立店
4. 出品点数 66 件
5. 入館者数 26,874 人
6. 入場料金 一般600円/大学・高校生400円/中学・小学生200円
7. 担当した研究員数 1 人
8. 展覧会の内容 京都国立近代美術館の所蔵品から、竹内栖鳳ら49人の画家も名品66点を展示し、明治から戦後に至る京都日本画の流れを概観する。
9. 講演会等 無
10. 広 報 ポスター、チラシを中心とする広報、交通広告、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティ  
ー情報掲載、等
11. アンケート調査  
調査期間 平成16年10月16日～平成16年11月28日(39日間)  
調査方法 館内にアンケート箱を設置  
アンケート回収数 97 件  
アンケート結果 ・良い 84%(81件)・普通 8%(8件)・悪い 3%(3件)  
・無記入 5%(5件)

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

国立美術館の名品をまとめて見ることができる好機会であり、時代に照らして3つのセクションに分けて展示構成したことで、作風の変化や京都の日本画近代化の流れがわかりやすく紹介できた。また、出品作品が京都の自然や花、舞妓など京の風土に根ざした主題が多く、高度に洗練された京都日本画の美の世界が堪能でき、多くの来館者から好評であった。その他、ギャラリートーク、親子ギャラリートークも実施した。

##### 【見直し又は改善を要する点】

展覧会名やキャッチコピーなど、よりインパクトのあるわかりやすいものにして広報すれば、更なる入館者増につながるのではないかと思う。

## 京都国立近代美術館所蔵巡回展

### 「京都国立近代美術館所蔵日本画名品展 日本画に見る人と自然」

#### 方 針

当館所蔵品の日本画の中から京都画壇の作品を中心に一部東京の作家の作品も含めて、約100年にわたる日本画の流れを「人」と「自然」に着目して紹介する。

#### 実 績

1. 開会期間 平成17年1月2日(日)～平成17年1月30日(日)(25日間)
2. 会 場 北九州市立美術館
3. 主 催 北九州市立美術館、京都国立近代美術館  
後 援 朝日新聞社、NHK北九州放送局、九州旅客鉄道株式会社、西日本鉄道株式会社
4. 出品点数 70件
5. 入館者数 8,556人
6. 入場料金 一般1,000円(800円)/大学・高校生800円(600円)/  
中学・小学生600円(400円) ( )内は前売り、団体  
団体は20名以上、市内在住の65歳以上は無料、障害者手帳をお持ちの方及び付添1名無料
7. 担当した研究員数 1 人
8. 展覧会の内容 京都国立近代美術館が所蔵する日本画によって「日本画に見る人と自然」をテーマに70点を展示
9. 講演会等 無
10. 広 報 ポスター、チラシを中心とする広報、交通広告、新聞広告、看板広告、放送、パブリシティ  
ー情報掲載、等
11. アンケート調査 無

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

幅広いテーマにおいて、時代的地域的に広範にわたりながら、代表的な日本画作家の作品を一堂に展示ができて良かった。また、京都と東京の作品の比較において、美意識の違いも感じ取ることができた。

##### 【見直し又は改善を要する点】

後援となったマスコミの取り組みが不十分であったので今後はもっと強い協力体制を取っていきたい。



## (2) 貸与・特別観覧の状況

### 中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

### 実績

#### 1. 貸与・特別観覧の件数

貸与 81件(641点)

特別観覧 91件(464点)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

収蔵品については、各美術館や新聞社等の企画による展覧会への出品依頼も、近年とみに数多くなり、その貸出手続きや貸出にともなう点検作業などかなりの時間と労力を要する。当館の常設展示スペースは決して広くなく、当館において十分に所蔵品を紹介できないことも考慮し、作品の保存に支障がない範囲でできる限り依頼に応じ、収蔵品を有効活用するとともに、公私立美術館の活動を積極的に支援して各館から好意的に受け止められている。

本年度も渋谷区立松濤美術館他4会場を巡回した「河井寛次郎展」に10点の河井作品を貸し出したほか、国立国際美術館の新館開館記念の「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展にはデュシャンのレディ・メイドの代表作を出品するなど、例年以上の貸出依頼に答えている。また、当館は海外の美術館からの出品依頼も多く、本年はイギリスのテート・リバプールに鯉江良二や八木一夫の陶芸作品を出品し、スペインのピカソ美術館にもピカソの油彩作品を貸し出した。

#### 【見直し又は改善を要する点】

作品の貸与、特別観覧を積極的に行うこと自体は重要であると考えますが、ほぼ毎日のように貸出業務が生じる上での仕事量は負担が大きく、作品管理に携わる専門学芸職員の増員も急務である。

\*添付資料

貸与件数等の推移(事業実績統計表 p.8)

特別観覧件数の推移(事業実績統計表 p.9)

### 3. 調査研究

#### 中期計画

- (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。
- <1> 収蔵品に関する調査研究
  - <2> 美術作品に関する調査研究
  - <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
  - <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
  - <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等
- (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。
- (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

#### 実績

1. 調査研究
- (1) 収蔵品の調査研究
- 新収日本画作品についての調査研究
  - 所蔵洋画作品についての調査研究
  - 所蔵工芸作品についての調査研究
- (2) 展覧会のための調査研究
- 堀内正和に関する調査研究（神奈川県立近代美術館との共同研究）
  - ファッションと色彩についての総合的研究（K C Iとの共同研究）
  - 横山大観についての調査研究
  - ブラジルの近現代美術についての調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）
  - 八木一夫と現代陶芸についての調査研究（岐阜県現代陶芸美術館ほかとの共同研究）
  - 剣持勇とインテリアデザインについての総合的研究（松戸市教育委員会美術館準備室との共同研究）
  - 戦後美術の世界的動向についての調査研究
  - 草間彌生に関する調査研究（東京国立近代美術館・広島市現代美術館・熊本市現代美術館・松本市美術館との共同研究）
  - 田中一光とグラフィックデザインについての総合的研究
  - 村上華岳についての調査研究
  - 小林古径についての調査研究（東京国立近代美術館との共同研究）
  - 他の美術館等における調査研究に対する協力
    - ・亀井茲明コレクションに関する総合研究（科学研究費補助金・東京大学大学院人文社会系研究文化資源学研究専攻）
    - ・京都を中心とした、日本の伝統工芸の過去・現在・将来（国際日本文化研究センター）
    - ・水木コレクションの形成過程とその史的意義（国立歴史民族博物館）
    - ・近代工芸運動の総合的国際比較研究（大阪大学大学院文学研究科芸術学講座）
- (3) 科学研究費補助金による調査研究
- 琳派の系譜 その継承と交流 - 神坂雪佳を中心に（日本学術振興会）
- (4) その他助成金
2. 調査研究費 予算額 3,830,000円 決算額 1,024,035円

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

中期計画に基づいて調査研究をすすめ、平成16年度のみ調査研究と本年を最終年度とする調査研究については、公刊図書及び展覧会カタログにその成果を発表し、平成17年度以降を最終年度とする調査研究はさらに継続していく予定である。また、外部資金による調査研究、外部研究者との交流についても積極的に取り組み、日本学術振興会などから研究助成金を得て調査研究にあたった。その成果についても、今後積極的に発表していく予定である。

また、他機関を中心とする研究補助金等を受けての共同研究にも参加するなど、積極的に取り組んだ。

なお、田中一光とグラフィックデザインについての総合的研究については、本年度に予定していた「田中一光展」が遺族の意向で延期となったが、今後展覧会は開催する予定のため、継続して研究を行っている。また、当展覧会の延期にとまらぬ、この期間に当館所蔵品で「京都国立近代美術館所蔵 - 川勝コレクションの名品 河井寛次郎展」を開催し、京都国立近代美術館所蔵名品集「河井寛次郎」を発行した。

### 【見直し又は改善を要する点】

調査研究及び発表については、外部資金を積極的に獲得したが、将来はこれ以外にも、より多方面にわたる機会と場をとらえて、調査研究と発表活動をする必要がある。

### 【計画を達成するために障害となっている点】

平成16年度は平成15年度同様に積極的に調査研究に取り組んだが、当館のような少人数の美術館においては、担当展覧会、その他の日常業務をかかえながら、さらに調査研究に携わることには限界がある。これまで以上に調査研究活動に取り組むためには、他館に比べて不足している研究職員の増加が課題となる。

\*添付資料 調査研究一覧（事業実績統計表 p.59）

## 4 . 教育普及

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。  
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。  
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。  
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 方 針

利用者が主体的かつ創造的に美術館を活用できる環境整備、および利用者の自由な発想を促すための教育セミナー、ワークショップ、広報活動を充実させる。

### 実 績（総括表）

- (1) - 1 資料の収集及び公開  
収集件数 104件
- (1) - 2 広報活動の状況  
刊行物による広報活動 3種  
ホームページによる広報活動  
マスメディアの利用による広報活動
- (1) - 3 デジタル化の状況

平成16年度にデジタル化した美術作品の件数 500件(目標500件)

(2) - 1 児童生徒を対象とした事業

ワークショップ 8回 子ども・保護者 371人

生き方探究・チャレンジ体験 3回(9日間) 13人

(2) - 2 講演会等の事業

講演会 14回 1,147人(平成15年度実績 1,125人)

シンポジウム 1回 68人(平成15年度実績 136人)

パネル・ディスカッション 1回 107人

ファッションショー 1回 190人

コンサート 1回 100人

(2) - 3 友の会活動

会員数 256人

(3) - 1 研修の取組

美術館・歴史博物館学芸員専門研修会の開催

(3) - 2 大学等との連携

(3) - 3 ボランティアの活用状況

(登録の人数を含め記載する。)

平成16年度は展覧会聞き取りアンケート及び図録等発送作業を実施 延べ327名

(又は今後の取り組み)

平成17年度は、引き続きボランティアの導入し、新たな分野に取り組む準備する。

(4) 渉外活動 企業等との連携

(6) 教育普及経費 予算額 36,734,000円 決算額 17,768,583円

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

近年、各美術館において美術館教育の重要性及び学校現場との連携プログラムなどの実施が活発化してきている。当館もこれまでの独自の特色を発揮するべく、美術館教育についても積極的にかかわってきたが、漸く本年11月1日から教育普及を専門とする研究補佐員の採用が実現し、より活発な展開を行える体制が整った。

また、昨年より美術館教育と学校現場の関わりをテーマとする京都教育大学の科学研究費によるプロジェクトによって、当館を会場に美術教育学会との共催シンポジウムを開催するとともに、国立美術館5館の教育普及担当者の会議もはじめて開催されるなど、当館での活動も注目されている。

### 【見直し又は改善を要する点】

将来的に当教育普及を担当する係、さらには課が設置されることが望ましいが、当面は新採用された研究補佐員を中心に、常設展示とも連動しながら、コレクションを用いた教育活動を開発するための予算処置も必要となろう。

\*添付資料 教育普及件数の推移(事業実績統計表 p.13)

## (1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況

### 中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

### 実績

#### 1. 収集

件数 1,271件(購入 104件 寄贈 1,167件)

#### 2. 公開

公開場所 4階、1階のフリースペースに設置

公開日数 306日間

公開資料数 74件

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

国内外の美術館、大学、関係研究機関との資料交換を継続し、かなりの点数の寄贈図書があった。また、基本的な図書、今後の調査研究、及び展覧会企画に必要な図書類を積極的に購入した。

当館には、構造的に美術図書閲覧室を設ける空間的余裕はないが、1階及び4階のフリースペースにコーナーを設けて一部を入館者に公開するよう努めた。そのため、開館日にはいつでも誰でも閲覧できる体制となり、入館者からは好評であった。なお、当館に空間的余裕がないことの打開策として、当館が開催した展覧会330回(3月末現在)の図録のうち、残部に余裕があるものについて、287冊を隣接する京都府立図書館に寄贈したため、当館の展覧会図録が閲覧可能となった。なお、引き続き本年度開催した展覧会の図録7冊についても寄贈した。

#### 【計画を達成するために障害となっている点】

上記のように、隣接の図書館で当館の展覧会図録の閲覧が可能となったが、建物に空間的余裕がないことと、これに専従する人員がないことが、現在もなお閲覧室新設にあたっての根本的な障害となっている。

## (1) - 2 広報活動の状況

### 中期計画

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

### 実績

#### 1. 広報誌名

##### (1) 年報

発行年月日 平成17年3月発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 全国美術館・博物館、大学・学校等

##### (2) 概要

発行年月日 平成16年6月発行(発行回数1回)(年度計画記載発行回数1回)

料金 無償

配布先 全国美術館・博物館、大学・学校等

##### (3) 展覧会に伴う図録の編集・発行

発行年月日 8回発行(編集8回・発行2回)

売価 ファッションと色彩展(編集)2,400円 横山大観展(編集)2,000円

ブラジル展(編集)1,200円 八木一夫展(編集)3,000円

剣持勇とその世界展(編集)2,000円 痕跡展(編集・発行)2,000円

草間彌生展(編集)2,200円 河井寛次郎展(編集)2,940円

配布先 全国美術館・博物館、大学・学校等(無償)

##### (4) 美術館ニュース「視る」

発行年月日 奇数月発行(発行済み回数6回、発行部数6冊)(年度計画記載発行回数6回)

料金 無償

配布先 会場内配布、全国美術館・博物館、大学・学校等

##### (5) カレンダー(展覧会予定表)

発行年月日 平成17年1月発行(発行回数3回)(年度計画記載発行回数3回)

料金 無償

配布先 会場内配布、全国美術館・博物館、大学・学校等

##### (6) 「京都国立近代美術館所蔵名品集[河井寛次郎]」の編集

発行年月日 平成17年2月発行(発行回数1回)

料金 2,940円

配布先 書籍として館内及び一般書店で販売。

### 自己点検評価

#### 1. 展覧会の記事掲載

##### 【良かった点、特色ある取組み】

通常、新聞社や美術関係及び一般情報誌の依頼により、プレスリリース、出展作品の写真などの資料を送付し、展覧会の記事掲載をしている。また、展覧会についてより詳しく紹介してもらえるよう取材の受入も適宜実施して

いる。

**【見直し又は改善を要する点】**

最近、記事掲載の依頼先から、概ね展覧会会期の2, 3ヶ月前に料金や講演会などの詳細を知らせてほしいとの要望が多いので、早い時期に回答できるように対応する必要がある。

また、展覧会に関する講演会以外のイベント(ワークショップなど)も、より一層紹介していきたい。

**2. ホームページの掲載**

**【良かった点、特色ある取組み】**

当館のホームページの掲載以外に、私設の美術館関係ホームページの掲載を行っているところへ当館の展覧会紹介の掲載を依頼している。

**【見直し又は改善を要する点】**

現在は、基本的に文字情報を主として掲載を依頼しているが、先方から作品の画像データの掲載を求められることが多く、展覧会を問わず、著作権上問題のないものは可能な限り対応したい。

**3. 館パンフレット、展覧会ポスター、などの掲出**

**【良かった点、特色ある取組み】**

館パンフレットや年間展覧会案内、チラシを作成して館内で配布する外、他の美術館、観光案内所などに掲出している。また、生涯学習センターなど来館する客層にあわせて展覧会資料を重点的に掲出するようにしている。

**【見直し又は改善を要する点】**

ポスター、チラシなどを他の美術館などに掲出及び配布してもらっているが、宣伝効果を上げるためにも部数や送付先について再検討したい。また、年間カレンダーは、先方から早く送付して欲しいとの要望があり、作成時期の再度検討したい。



## (1) - 3 デジタル化の状況

### 中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。  
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

### 実績

#### 1. 所蔵作品のデジタル化

平成16年度にデジタル化した美術作品の件数 500件(目標500件)

平成16年度未収蔵作品数 7,680件

平成16年度未デジタル化作品数 4,350件

今後のデジタル化の対応 毎年 500件をデジタル化予定

#### 2. ホームページのアクセス件数 252,131件

ホームページのアクセス件数は、順調に伸び、昨年に比べて3万件を超えることとなった。このアクセス件数の増大は、昨今のデジタル化への国民の高い関心と整備されたインフラ、ネットユーザーの増加が大きな要因と言える。情報をインターネットで検索し、それを用いる時代が到来したことを物語る一つの例である。ただし、この中にはハッカーやクラッカーの攻撃も入っていることは忘れてはならないのである。

#### 3. デジタル化した情報の公開

HP等による公開件数 60件

平成15年度に引き続き、画像の公開については、所蔵作品のカラーポジフィルムが順調にデジタル化しているので、それを基に、まずは館内のネットワークで段階的に増やしていくつもりである。しかし、画像公開には著作権という大きな制約もあり、この著作権の許可に基づき館外への公開も合わせて行っていくつもりである。また、平成17年度ホームページ上に著作権切れの作品を公開するため、平成16年度はその準備を行った。また、文化庁のポータルサイトへの協力も行った。このポータルサイトについては、今後もできる範囲で協力を推進していく。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度もアクセス件数の増大につれてネチケット(ネットワークのエチケット)を守らないハッカーやクラッカーが増え、多くの攻撃を受けた。文部科学省からの指導もあり、セキュリティに対しては、日々チェックしている状態である。このような攻撃を受けても当館のネットワークシステムやサーバを守り抜かなければならず、それらは大変な作業量であった。また、日々、この種の攻撃やウィルスなど、館内、館外のネットワーク管理には多大な労力を使っている。平成16年度も外部からの攻撃から館のネットワーク環境を守れたことは良かったことである。

#### 【見直し又は改善を要する点】

平成15年度同様、当館では、ネットワーク及びコンピュータ管理には常勤、非常勤にしても人員はおらず、研究官1名が併任担当している。現在も相当な合理的、効率的な管理を行っているが、システムの更新や管理など、人員と予算を考えると自ずと限界が訪れることは明白である。これらの状況の解決に向けての検討を、さらなる合理化の上、今後押し進めなければならないと考える。特に、平成16年度から始まるホームページ上での著作権切れ画像の公開に当たっては、さらなる業務の拡大が予想されるので、館の中での分散処理をどう押し進めるかが改善の大きなポイントである。

## (2) - 1 児童生徒を対象とした事業

### 中期計画

(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

### 実績

#### 1. 事業名 子どものためのワークショップ

##### 開催期間

- ア.平成16年5月13日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- イ.平成16年5月14日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- ウ.平成16年5月19日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- エ.平成16年5月21日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- オ.平成16年5月26日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- カ.平成16年7月10日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- キ.平成16年11月16日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)
- ク.平成17年1月8日 (1回) (開催場所:京都国立近代美術館)

参加者数 子ども・保護者 371人

担当した研究員数 2人

事業内容 学校現場の教師に美術館の創造的利用を促すとともに、教師と美術館職員が対話しながら、教師自身が発想し運営するワークショップ

#### 2. 事業名 「生き方探究・チャレンジ体験」事業

##### 開催期間

- ア.京都市立神川中学校 平成16年10月19日~平成16年10月21日(3日間)
- イ.京都市立桂川中学校 平成16年11月16日~平成16年11月18日(3日間)
- ウ.京都市立桂中学校 平成17年1月25日~平成17年1月27日(3日間)

参加人数 13人

参加した研究員 2人

事業内容 中学生を受け入れ美術館業務を体験させることにより、美術への関心を高めるとともに、社会の一員としての自覚を育成する。

その他 平成13年度から実施しているが、受入件数も増え、定着しつつある。

#### 3. 事業名 鑑賞教育研究プロジェクトシンポジウム

開催期間 平成16年12月4日

参加人数 107人

参加した研究員 1人

事業内容 学校と美術館との間で、美術を身近なものとするためにどのような関係を築いてゆくべきか、その課題と可能性、これからの鑑賞教育のあり方について、学校及び美術館関係で討議した。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

これまでのこの活動についての当館の取組みは、「美術館が強制するプログラムではなく、教育現場の教師の創造的発想を励まし、その取組みを支援する」という立場を堅持していた。そして、ワークショップの各プロゲ

ラムについては、現場教師の発想を尊重し、その実現に学芸課職員ができる限りの協力をし、解説を行うといった実践を貫いた。さらに今年度11月からは教育普及担当の研究補佐員が増員されたことで、同補佐員も常にワークショップに積極的に取り組む体制が整ったことも有益である。また、こうしたワークショップに熱心な小学校の図工科専任教員の依頼に応え、土曜日の午前中に常設展示場で親子のための鑑賞会なども開催した。

**【見直し及び改善を要する点】**

展覧会場でのワークショップ自体の開催は有意義であったが、一般の一部の鑑賞者からはワークショップ参加者の会話などが、静かな鑑賞環境を妨害するとして苦情が寄せられた。また、小学生以下の幼児などの鑑賞機会も今後は増加していくと思われるので、その人的対応等も当然せまられるであろう。なお、展示場内で他の鑑賞者にできるだけ迷惑をかけることのないよう音声ガイドレシーバーを導入し、草間彌生展で児童30名にレシーバーを持たせ、美術教師の解説を受けながら作品と対峙する試みを行い、苦情に対する改善を行った。

## (2) - 2 講演会等の事業

### 中期計画

(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。

それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

### 実績

1. 講演会 13回(年度計画記載回数: 各展覧会1~2回) 別添「4-(5)講演会一覧」  
開催期間 13(日間)  
開催場所 京都国立近代美術館1階講堂  
参加者数 1,114人  
担当した研究員数 8人  
事業内容 一般入館者を対象に展覧会に即した内容をわかりやすく講演する。  
アンケート結果(回答数373件)・良い 60.6%(226件)・普通 31.1%(116件)  
・悪い 4.6%(17件)・無記入 3.8%(14件)
2. 友の会会員向け講演会 1回  
開催期間 平成17年3月19日(1日間)  
開催場所 京都国立近代美術館1階講堂  
参加者数 33人  
担当した研究員数 1人  
事業内容 友の会会員を対象に展覧会に即した内容をわかりやすく解説した。
3. シンポジウム 1回(年度計画記載回数: 1回)  
開催期間 平成16年4月3日(1日間)  
開催場所 京都国立近代美術館1階講堂  
参加者数 68人  
担当した研究員数 1人  
事業内容 「彫刻家 堀内正和の世界展」に関連し、彫刻家としての堀内正和氏について、パネリスト3人を招き、討議を行った。
4. パネル・ディスカッション 1回  
開催期間 平成16年10月8日(1日間)  
開催場所 京都国立近代美術館1階講堂  
参加者数 107人  
担当した研究員数 1人  
事業内容 「痕跡-戦後美術における身体と思考」展に関連し、美術史学と痕跡について、パネリスト3人を招き、討議を行った。
5. ファッションショー 1回  
開催時期 平成16年6月6日(1日間)  
開催場所 京都国立近代美術館1階ロビー  
参加人数 190人  
担当した研究員数 1人

事業内容 「COLORS ファッションと色彩 - VIKTOR&ROLF&KCI」展に関連し、京都服飾文化研究財団との共催で実施した。会期中に会場にて参加者を募り、当イベントを行った。

#### 6. コンサート

開催時期 平成16年8月21日(1日間)

開催場所 京都国立近代美術館1階ロビー

参加者数 100人

担当した研究員数 1人

事業内容 「ブラジル:ボディ・ノスタルジア」展の開催にあたり、ブラジル音楽の演奏会を実施した。

#### 7. 日本美術教育学会連続公開講演会

開催時期 平成16年4月11日~平成16年7月11日(4日間)

開催場所 京都国立近代美術館1階講堂

参加者数 178人

第1回 平成16年4月11日 50名

第2回 平成16年5月9日 48名

第3回 平成16年6月20日 45名

第4回 平成16年7月11日 40名

事業内容 日本美術教育学会と共催し、「芸術の日本近代」についての講演会を4つのテーマに分けて連続で実施した。

#### 8. 京都迎賓館 その人と形 展

開催時期 平成17年3月15日~平成17年3月18日(4日間)

開催場所 京都国立近代美術館1階ロビー及び講堂

出品点数 72件

入場者数 11,684人

事業内容 平成17年4月に開館する京都迎賓館について、京都の伝統的技能の素晴らしさや、高い技術を知っていただくと共に、京都迎賓館に対する理解を深めることを目的に調度品の現物や写真等を展示する。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

各展覧会ごとに、1~2回程度、一般入場者を対象とした内容の講演会を開催する一方、専門的知識を求める聴衆を対象とした講演会、シンポジウムや、当館独自で日本美術教育学会と協力して4回連続講演会を実施した。また、今回はCOLORSファッションと色彩展にあわせて、一般公募でファッションショーを催した他、ブラジル・ボディ・ノスタルジア展の関連行事としてブラジル音楽の演奏会を行ったことも、予想以上の好評を博した。さらに昨年に引き続き、平成15年度から活動を開始した友の会会員を対象として講演会を行い、美術の理解と普及に努めた。

## (2) - 3 友の会活動

### 実績

- |         |                              |
|---------|------------------------------|
| 1. 会員数  | 256人                         |
| 2. 活動内容 | 会員向け講演会を実施。(3月19日実施、参加者 33人) |
| 3. その他  | 友の会会報の発行(年4回)                |

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

近代美術に関心を持つ人々の観賞や研究の便宜を図り、かつ、当館の活動を支援してもらう目的で平成15年度に発足した。一般会員、特別会員、法人会員の3種類の会員制度があり、この一年間で248人の入会者があった。特に、特別会員、法人会員が全体の4分の1を超え、まだ少数ではあるが地域の企業等からの支援を得てきた。また、会員の特典として当館の展覧会以外でも国立美術館(他の3館)の常設展が随時観覧でき、さらに国立国際美術館の企画展が各展覧会ごとに1回観覧でき、また国立博物館(関西の2館)の常設展についても団体料金で観覧できるなど幅広い利用が可能となっている。

#### 【見直し又は改善を要する点】

会員の募集を中心とした活動を行っているが、平成17年度以降については、会員の募集と並行して会員に対する事業として、新たにワークショップ、音楽コンサート(年3回)を実施し、友の会活動の充実を図りたい。

### (3) - 1 研修の取組

#### 中期計画

- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。

#### 実績

##### 1. 文化庁との共催事業

###### (1) 美術館・歴史博物館学芸員専門研修会の開催

期間 平成17年2月21日～平成17年2月25日（5日間）

開催場所 京都国立近代美術館

参加者数 45人

担当した研究員数 1人

事業内容 公私立の美術館・歴史博物館の学芸員や学芸業務を担当する専門職員等を対象に、学芸業務に関する専門的知識・技能の向上を図る研修を行い、もって美術館・歴史博物館の活動の充実に資する。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

平成16年度は美術館・歴史博物館学芸員専門研修会を開催し、関係機関の学芸員等が研修に参加、研究協議に協力し成果があった。

##### 【計画を達成するために障害となっている点】

学芸担当職員研修制度を設けたが、1～2ヶ月では十分な研修が行えず、他方で、十分な研究を行うために長期間研修員が勤務館を離れることは、当該館の仕事に支障を来す恐れがある。内部研修を受けることができない小規模館では尚更である。この点が本制度の課題及び障害となっており、平成16年度に研修希望者がなかった大きな理由と考えられる。

## (3) - 2 大学等との連携

### 実績

1. 博物館実習生  
受入期間 1期：平成16年8月23日～平成16年8月27日(5日間)  
2期：平成16年8月30日～平成16年9月3日(5日間)  
二期間：平成16年8月23日～平成16年9月3日(10日間)  
開催場所 京都国立近代美術館  
参加者数 12大学21名  
担当した研究員数 7人  
事業内容 美術館業務全般にわたる実習
2. 博物館実習生  
受入期間 平成15年12月9日～平成16年5月5日(10日間)(平成16年度は5日間)  
開催場所 京都国立近代美術館、京都服飾文化研究財団  
参加者数 京都橋女子大学13名  
担当した研究員数 1人  
事業内容 平成16年度に京都服飾文化研究財団と共催で開催予定の展覧会に準備段階から立ち上げまでに参加することで美術館業務を実習する。
3. 講演会((3)講演会等の事業に前掲)
4. シンポジウム((3)講演会等の事業に前掲)
5. 子どものためのワークショップ((2)児童生徒を対象とした事業に前掲)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

- 1) 博物館実習は受け入れ数を従来の半数に厳選した結果、特に実務実習において、以前にもまして細やかで充実した実習を行うことが出来た。
  - 2) 京都橋女子大学の実習は、大学の正規の授業を美術館の展覧会活動の中で実施し、準備段階から学生に実務的な経験の場を与える全く新しい取り組みであり、将来において美術館を大学教育の現場とリンクさせる試みである。
  - 3) 日本美術教育学会と共催した連続講演会「芸術の日本近代」は、明治期の日本において「美学」はどのように受容され、発展を遂げたのか、芸術諸分野での固有の美意識の格闘、現場を辿りながら、国際社会の中での「日本の美学」について追究するもので、テーマに分けて4回連続で実施し、内容も充実したものとなった。
  - 4) 内閣府、国土交通省、平安建都1200年記念協会と共催した京都迎賓館 その人と形 展は、平成17年4月に開館する京都迎賓館の伝統的技能の高度な技術や素晴らしさを理解するために調度品の現物や写真等を展示し、ウィークデーの4日間で約12,000人の入場者があった。
- その他) 当館は美術館を大学の授業の現場として利用するよう、京都市内の大学に働きかけを続けており、平成16年度も6件の利用があった。当館職員もその実施に積極的に協力している。

#### 【見直し又は改善を要する点】

大学の教育現場として美術館を利用する可能性について、大学当局との研究を重ね、より創造的な利用を模索していく必要がある。



### (3) - 3 ボランティアの活用状況

#### 中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

#### 実績

##### 1. 活動内容

平成16年度からは、京都国立近代美術館ボランティアとして40名を登録し、ボランティア業務を企画ごとに独自に募集するシステムにした。展覧会の聞き取りアンケート、法人の広報(臨時)、広報物・展覧会図録の発送作業を実施した。30日、延べ327人を動員した。

##### 2. 今後の取り組み

平成17年度は、16年度に実施した聞き取りアンケート調査を継続するとともに、各種印刷物等の発送業務を更に拡充し、新たな分野として解説ボランティアの準備を進めていきたい。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取り組み】

平成16年度に開催した8回の展覧会で聞き取りアンケート調査をボランティアにより実施した。8回の展覧会で合計3,156名の方の協力が得られ、目標の調査数を超過達成することが出来た。参加したボランティアの年齢構成がかなり高く、人生経験の豊かな人が多いため、聞き取り時における調査対象とのトラブルもなく、アンケートの記入内容も通常の自由記入型のものより詳しく記載されたものが多く、今後の業務改善に役に立つ有効なものとなった。

また、昨年からはじめた各種印刷物等の発送業務には、延べ98名の参加があり、展覧会の図録、チラシ、ポスター、招待状、記者発表案内、機関誌「視る」等の発送を遅滞なく行うことが可能となり、有効な広報活動が実現できた。

##### 【見直し又は改善を要する取り組み】

上記活動は昨年度の経験を踏まえ、ほぼ予定どおりの業務を処理でき、問題となることはほとんどなかった。この1年間の取り組みにより、当館のボランティアとして登録した方が40名となったが、今後新たな分野に取り組む準備のため、更に登録者数を増やし50名の規模にしたいと考えている。これにより、完成時期の不規則なポスター、チラシ等の発送業務にも臨機応変な対応が出来、ボランティアの緊急募集も可能になってくると考える。

現在は全てのボランティアが同列であるが、将来的には当館の方針に賛同し、協力してくれる人を捜し、ある程度の業務を任せられるリーダーを育成したい。同時に、高度なボランティアコーディネーターの役割を果たせるよう、館職員を必要な研修に参加させ、ボランティアだけに限らず、教育普及業務全体を見通せる者を育成したい。実績のある他館との交流も深めていきたい。

## (4) 渉外活動

### 中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 実績

#### (社)京都市観光協会との連携

(社)京都市観光協会が実施している「京都修学旅行パスポート」事業に協賛し、小中学生の入場料無料化とは別に「京都修学旅行パスポート」を持参の修学旅行の高校生を団体料金で入場できるようにした。また、受付にて絵はがきのプレゼントを、喫茶にて割引サービスを実施した。

#### 京都織物卸商業組合との連携

京都織物卸商業組合が実施している「京都きものパスポート」事業に協賛し、きもの産業の活性化及び入館者増を図るため、きもの着用者に特別展入場料金を団体料金で優待。

#### 京都市交通局との連携

京都市交通局が「スルッと関西」交通網を利用して実施する「京都1dayチケット」事業へ協賛し、当該チケット利用者に対し特別展料金を前売料金で優待。

#### 京都市と京都陸上競技協会との連携

京都市と京都陸上競技協会とが実施する「京都シティーハーフマラソン」に協賛し、当該マラソン参加者に対し、共催展入場料金を団体料金扱いとした。

#### 京都市産業観光局との連携

京都市が制定した「伝統産業の日」に因み実施する事業に協賛し、きもの着用者を常設展を無料とした。

#### (財)大阪21世紀協会との連携

(財)大阪21世紀協会が発行する関西で唯一の英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」に関西地区の美術館、博物館が展覧会情報を掲載し、経済界と連携した広報活動を行い、日本を訪れる外国人の入場者増を図る。

#### 単独開催展覧会の前売券の発売

民間企業とのタイアップし、利用者のチケット入手の利便性を高めるとともに、入場者増を図った。

#### (財)京都市駐車場公社との連携

(財)京都市駐車場公社と連携し、岡崎公園駐車場を利用の有料入館者に対し、駐車場料金の割引をした。

#### 朝日友の会との連携

朝日友の会事業と連携し、会員(朝日メイト)に対し、企画展(一部除く)観覧料金を団体料金扱いとした。

#### (社)日本自動車連盟(JAF)との連携

(社)日本自動車連盟(JAF)と連携し、JAF会員に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。

#### 京都学生祭典との連携

京都学生祭典「学生の日」に協賛し、期間中、「京都学生祭典クーポン券」を提示の利用者に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。

#### 「関西元気文化圏」への参加

文化庁が提唱した「関西元気文化圏」へ参加し、展覧会ポスター、チラシ等にロゴマークを印刷するなど。

#### 「関西文化の日」への協力

関西広域連携協議会及び関西元気文化圏推進協議会が実施する「関西文化の日」事業に協力し、11月3日の常設展及び企画展観覧料金、11月6、7日の常設展観覧料金を無料とした。

#### 「国際博物館の日」事業への協力

(財)日本博物館協会が実施する「国際博物館の日」事業に協力し、5月18日の常設展料金を無料とした。

#### トマト倶楽部との提携

京都新聞社のトマト倶楽部事業と提携し、会員に対し、企画展観覧料金を団体扱いとした。

(株)京阪カード、(株)阪急カード、(株)リロクラブとの連携

(株)京阪カード、(株)阪急カード、(株)リロクラブと連携し、各会員に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。

京都市地下鉄東西線「東山駅」に案内用看板を掲出

最寄り駅にあたる京都市地下鉄東西線「東山駅」に案内用看板を設置した。また、案内には日本語による通常の案内他、英語、中国語、ハングル語を併記し、展覧会ポスターも掲出している。

#### 京都市美術館との連携

京都市美術館と連携し、当館及び京都市美術館の両方で展覧会を観覧した利用者に対して、後で利用した展覧会の観覧料金を団体料金及び前売料金扱いとした。

「教育・文化週間」事業への協力

「教育・文化週間」事業に協力し、日本に滞在する留学生が学外活動や学習として利用できるよう、「痕跡展」招待券を京都、大阪、兵庫、滋賀、奈良の国際交流センター等に提供した。

「ミュージアムぐるっとパス・関西2005」事業への協力

関西の美術館・博物館等約60館で実施する共通入館券事業（常設展は無料）「ミュージアムぐるっとパス・関西2005」に参加し、平成17年3月より販売を開始した。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

美術館事業を充実させるためには、企業、財団等からの研究・展覧会等への助成、後援、協力を得るなど、積極的な企業等と連携を図ることが必要である。そのため、広く企業等に対する美術館事業への理解の促進を図り、有効な事業展開、支援を得られるよう渉外活動に努めた。昨年度に引き続き全国的に活動する日本自動車連盟（JAF）や、朝日友の会、更に平成16年度は京阪カード、阪急カード、リロクラブ、京都市美術館との連携が実現したことにより、入場者数の増加を図ることが出来た。

また、関西広域連携協議会等が実施する「関西文化の日」事業に協力し、文化力の向上に寄与できた。さらに、日本自動車連盟（JAF）とのタイアップを円滑に進めるための駐車場の問題も、京都市駐車場公社との連携によって解消された。

#### 【見直し又は改善を要する取組み】

全国的あるいは地域的に活動する企業等との連携には力を注いできたが、展覧会の割引制度の告知のための、各誌への掲載時期が入場者の動員に影響するため、今以上のタイムリーさが要求される。

#### 【計画を達成するために障害となっている点】

企業等との連携による割引の種類が増えることによって、窓口業務が煩雑になりトラブルの要因となる恐れがある。

## 5 . その他の入館者サービス

### 中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

### 実 績

- 1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1
- |             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 障害者トイレ      | 1 箇所 ( 1 階 1 箇所 )       |
| 障害者エレベータ    | 1 基                     |
| 段差解消 (スロープ) | 3 箇所 ( 正面玄関、喫茶室 )       |
| 貸出用車椅子      | 5 台 ( 座席昇降機能付き 2 台を含む ) |
- 2 . 観覧環境の充実 (1)-2、(1)-4
- ( 1 ) 音声ガイド
- |      |                                 |
|------|---------------------------------|
| 展覧会名 | 近代日本画壇の巨匠 横山大観展                 |
| 貸出期間 | 平成 1 6 年 7 月 2 日 ~ 8 月 8 日      |
| 貸出件数 | 1 1 , 1 4 3 件 ( 利用率 1 0 . 4 % ) |
- 3 . 夜間開館等の実施状況 (1)-3
- ( 1 ) 夜間開館実施状況
- |          |  |                           |                   |
|----------|--|---------------------------|-------------------|
| ア . 開催日数 | 1 9 日間 ( 4 月 3 0 日 ~ 9 月 1 7 日 までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後 8 時まで ) |                           |                   |
| イ . 入館者数 | 2 , 2 5 9 人 ( 総入場者数 4 0 , 3 3 1 人、夜間開館入場率 8 . 2 % )          |                           |                   |
| ウ . 実施日  | 4 / 3 0  | 5 / 7 , 1 4 , 2 1 , 2 8 , | 6 / 4 , 1 1 , 1 8 |
|          | 7 / 2 , 9 , 1 6 , 2 3 , 3 0                                  | 8 / 6 , 2 0 , 2 7         | 9 / 3 , 1 0 , 1 7 |
- ( 2 ) 小中学生の入場料の低廉化  
 昨年に引き続き、平成 1 6 年度開催の全ての共催展で小中学生の無料化が実現した。
- ( 3 ) ( 2 ) 以外の入場者料金の取り組み方  
 昨年に引き続き、常設展の学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を実施するとともに、特別展の高校生料金の低廉化を実施した。
- ( 4 ) その他の入館者サービス
- 4 . アンケート調査(1)-3
- |      |  |
|------|--|
| 調査期間 | 平成 1 6 年 4 月 1 5 日 ~ 4 月 1 8 日 ( 4 日間 ) 「堀内正和」               |
|      | 平成 1 6 年 7 月 1 7 日 ~ 6 月 2 0 日 ( 4 日間 ) 「COLORS - ファッションと色彩」 |
|      | 平成 1 6 年 8 月 5 日 ~ 8 月 8 日 ( 4 日間 ) 「横山大観」                   |
|      | 平成 1 6 年 9 月 1 6 日 ~ 9 月 1 9 日 ( 4 日間 ) 「ブラジル : ボディ・ノスタルジア」  |
|      | 平成 1 6 年 1 0 月 2 8 日 ~ 1 0 月 3 1 日 ( 4 日間 ) 「八木一夫」           |
|      | 平成 1 6 年 1 2 月 1 6 日 ~ 1 2 月 1 9 日 ( 4 日間 ) 「痕跡」             |
|      | 平成 1 7 年 2 月 1 0 日 ~ 2 月 1 3 日 ( 4 日間 ) 「草間彌生」               |
|      | 平成 1 7 年 3 月 3 1 日 ~ 4 月 3 日 ( 4 日間 ) ( 予定 ) 「河井寛次郎」         |

調査方法 各展覧会会期中の4日間にボランティアによる聞き取りアンケートを実施した。また、館内にアンケート箱を設置しており、入館者の意見を随時受け入れている。

アンケート回収数 3,164件

とても良かった 39.9% (1261件)、良かった 40.0% (1264件)

まあまあだった 12.9% (408件)、あまり良くなかった 1.3% (40件)

良くなかった 0.6% (20件)、無記入 5.4% (171件)

アンケート結果 立地、施設、展示内容については概ね70点以上の評価を得たが、観覧料金、接客で60点程度の評価であった。

#### 5. 一般入館者等の要望の反映 (2)

京都国立近代美術館では、常時アンケート調査を実施しており、苦情、要望等への迅速な対応のほか、入館者のニーズの把握に努め、例えば、作品内容を解説した説明パネルやキャプションの文字を見やすく大きくしたり、館内案内表示の増設等を行った。

#### 6. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3)

喫茶室では食器類のデザインを一新し、展覧会ごとのテーマメニューの提供を行った。また、喫茶室の禁煙化を実施した。ミュージアムショップでは、関西経済連合会の主宰による「ミュージアムグッズの共同開発」の一員となり、お客様の要望に応える商品開発に取り組んでいる。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

京都市駐車場公社と連携し、岡崎公園駐車場を利用の有料入館者に対し、駐車場料金の割引をしている。

隣接の京都府立図書館と協力し、過去の展覧会図録が府立図書館において閲覧できる。

入口に各種割引の情報案内、3階会場内に観覧順路の表示、4階ロビーに眺望案内写真と周辺地図を設置するなど、入場者に対する案内表示を充実させ、利便性の向上に努めている。

また、美術館敷地の入口に点字板を設置したり、インフォメーションに老眼鏡を3種用意するなど、バリアフリー化の推進にも取り組んでいる。

外国人入館者への対応として、平成14年度に引き続き、8カ国語の館案内リーフレットを常備している。

#### 【見直し又は改善を要する取組み】

一般入館者の要望等を把握するために、常時アンケート調査を実施しているが、今後も苦情、要望等に対して迅速に対応していきたい。